

小橋工業(株)のホームページ(以下、弊社サイト)においては、カタログ・取扱説明書・パーツリスト等の電子データの閲覧、ダウンロードのサービス(以下、本サービス)をご提供しております。
本サービスをご利用の際には、以下の注意事項をご確認ください。

電子データの取扱いについて

電子データの内容について

- 本サービスにおいては、弊社製品のカタログ、取扱説明書、パーツリスト等、製品に関する全ての印刷物を網羅するものではありません。
- カタログ、取扱説明書、パーツリストの内容は、製品の仕様変更などにより、予告なく変更される場合があります。その為、弊社サイト内に掲載される電子データの内容は、販売店等で配布、掲示されるカタログ、製品購入時に同梱する取扱説明書、印刷物として存在しているパーツリストの内容とは異なる場合がございます。

表記内容は、発行当時の情報であり、弊社純正部品の名称、小売単価、各営業所の名称、所在地などの情報が現在と異なる場合があります。
また、製品安全上の取り扱い、環境対応につきましては、製品販売時の法令、規制に適合するものであり、製品販売後の法令、規制の変更内容を反映していない場合があります。予めご了承ください。

著作権について

本サービス内の電子データにつきましては、弊社(小橋工業株式会社)が著作権その他知的財産権を保有します。無断で他のウェブサイトや印刷媒体に転載することや複製、翻訳等はできません。
但し、お手持ちの製品ご使用の為、1部に限り印刷することができます。

保証について

弊社の製品保証、安全性の保証は製品付属の書面に基づく保証に限られており、弊社サイト内の電子データに基づく保証は提供いたしません。

お問合せについて

ご使用の製品の取り扱い及び、使用上の安全等に関するお問合せは、ご購入店にご相談頂きますよう、お願ひいたします。

免責事項

弊社サイトのご利用に起因するソフトウェア、ハードウェア上の事故その他の損害等につきましても、一切の責任を負いません。
弊社サイトのご利用に際して生じたお客さまと第三者との間のトラブルにつきましては、一切責任を負いません。
弊社サイトのサービスは予告なく中止、または内容や条件を変更する場合がございます。

以上

小橋工業株式会社

コバシアセ"ローター

取扱説明書

BS850MT-4S、3S、0S

BS850M-1S

BS850MT-4L、3L、0L

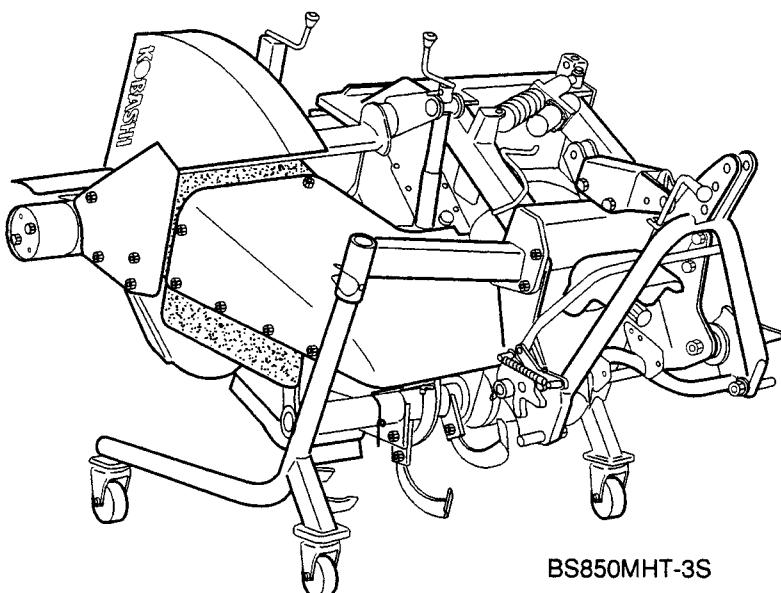
BS850M-S、T、U

BS850MHT-4S、3S、0S

BS850MH-1S

BS850MHT-4L、3L、0L

BS850MH-S、T、U



BS850MHT-3S



当製品を安全に、また正しくお使いいただくために必ず本取扱説明書をお読みください。誤った使いかたをすると、事故を引き起こす恐れがあります。
お読みになった後も必ず製品に近接して保存してください。

KOBASHI

はじめに

このたびはコバシアゼローターをお買いあげいただきましてありがとうございました。

この取扱説明書は、アゼローターの性能を十分に発揮させ、より安全で快適な農作業をしていただくためにも、ご使用前によくお読みいただき、正しい取扱いをしてくださるようお願いいたします。又、アゼローターを他の人に貸出しされる場合には、この取扱説明書も併せて貸出ししていただき、正しい取扱いをしていただくようにご指導をお願いいたします。

なお、本製品については、不断の研究成果を新しい技術としてただちに製品に取り入れておりますので、お手元の製品と本書の内容が一致しない場合もありますが、あらかじめご了承ください。

⚠ 安全作業のポイント

- ◎安全な作業をしていただくためには、まず機械の使い方を十分理解し、正しい取扱いをすることが基本となります。
- ◎この取扱説明書では、特に、重要と考えられる取扱い上の注意事項について、次のように表示しています。
必ずお読みいただいて事故のない安全な作業をしてください。

▲危険…その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

▲警告…その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

▲注意…その警告文に従わなかった場合、ケガを負う恐れがあるものを示します。

取扱い上の注意…その警告文に従わなかった場合、機械の損傷を起こす恐れのある操作を示します。

コバシアゼローターの使用目的・使用範囲

このコバシアゼローターは水田の畦塗用作業機です。

使用目的以外の作業や改造などは、決して行なわないでください。

目 次

▲ 安全に作業するために 1	オフセット操作 (電動油圧シリンダー) 28
1. はじめに 1	1. スイッチボックスの取付け 28
2. 作業の前に 2	2. 電源コードの接続 28
3. トラクターへの着脱 2	3. 作業機への接続 31
4. 防護カバー類の取付け 2	4. 取扱い上の注意 32
5. 装着時の前後バランスの確認 2	5. 操作と取扱いの注意 32
6. トランクへの積み・降ろし 3	6. 移動・格納 33
7. 一般走行 3	オフセット操作 (手動式) 34
8. 圃場への出入り 4	作業前の点検 35
9. 作業をしている時 4	1. 各部のボルト・ナットのゆるみ 35
10. 作業中の点検 5	2. ジョイントへのグリスアップ 35
11. トラクターを止めるとき 5	3. ダブルジョイントへのグリスアップ 35
12. その他 5	4. ギヤーケースのオイル量 36
▲ 安全ラベルの取扱い 6	5. チェンケースのオイル量 36
サービスと保証について 9	6. ジョイントのノックピン 36
各部の名称 10	7. 空転、暖機運転 36
アゼローターの開梱 11	圃場の準備 37
ジョイントの取付準備 12	移動、圃場への出入り 38
1. 切断方法 12	上手な作業の仕方 39
2. 取付方法 12	1. 作業前の各部の調整 39
3. 長さの確認 13	2. 作業の仕方 41
4. 入力軸セフティカバーの取付け 13	作業後の手入れ 42
トラクターへの装着(日農工オートヒッチ0・I形) 14	耕うん爪の交換 42
1. 装着前の準備 14	1. 爪の種類と本数 42
2. トラクターへの装着 15	2. 耕うん爪の取付方法 42
3. 装着後のトラクターとの調整 18	保守・点検 43
4. トラクターからの取外し 19	保管・格納 46
トラクターへの装着(標準オートヒッチI・II形) 20	トラクター別装着表 47
1. 装着前の準備 20	点検整備一覧表 60
2. トラクターへの装着 21	異常診断一覧表 61
3. 装着後の調整 24	消耗部品 62
4. トラクターからの取外し 25	用語解説 63
トラクターへの装着(日農工特殊3Pヒッチ) 26	主要諸元 64
1. トラクターへの装着 26	
2. トラクターからの取外し 27	

⚠ 安全に作業するため

安全に作業していただくために次のことを守ってください。
もし怠ると…傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります。

1 はじめに

1-1 取扱説明書をよく読み、機械の使い方をよく覚えてからご使用ください。

トラクターの取扱説明書もあわせてよくお読みください。

機械の操作を知らずに使用するとたいへん危険です。

1-2 取扱説明書は、いつでも読めるように、機械と一緒に大切に保管してください。

1-3 機械を他人に貸出しされる場合は、取扱説明書も併せて貸出していただき、正しい取扱いをしていただくように、指導してください。



1-4 適応トラクター以外への装着の禁止

主要諸元表に適応トラクター馬力を表示していますので熟読の上、適応馬力内のトラクターに装着してください。特にトラクター馬力が小さい場合はトラクターとの重量バランスが悪くなり事故の原因となります。



1-5 服装には注意を払いましょう

作業中の服装は、ヘルメット、シートベルト、すべらない靴、キチンとした作業服を着用してください。だぶついたズボンや上着など、回転部分に巻き込まれやすい服装は、たいへん危険です。ボタンもキチンと止めましょう。



1-6 次のような状態では運転しないでください。

- ① 飲酒運転
- ② いねむり運転
- ③ 病気や薬物の作用で正常な運転ができないとき
- ④ 若年者
- ⑤ 妊娠中の方

機械の操作に十分熟練し、必要な運転免許証を携帯し、心身ともに健康な状態で運転してください。



1-7 共同作業者がある場合は、動作ごとに合図を徹底しましょう。

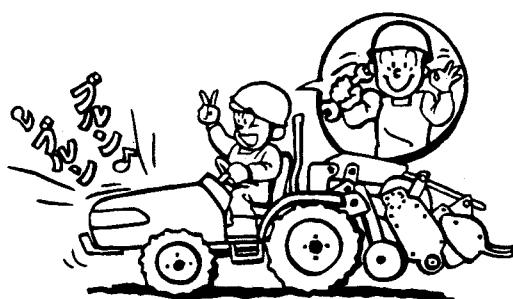
1-8 使用目的以外の作業や、機械の改造は事故の発生、又は、機械の故障の原因となりますので、決してしないでください。

⚠ 安全作業をもし怠ると傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります

2 作業の前に

2-1 機械の点検

各部のボルト、ナットなどのゆるみや、ピンの脱落がないか確認してください。作業中にボルト、ナット、ピンなどが外れると、作業機やトラクターの破損の原因及び事故の原因となります。



3-6 取付各部のトメピンが全て確実に装着されているか確認してください。



3 トラクターへの着脱

3-1 作業機の着脱及び調整は、平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりした場所で行いましょう。特に夜間の作業機の着脱は、安全で適切な照明を用いる等、安全に留意して行ってください。

3-2 トラクターを移動して作業機を装着する場合には、トラクターと作業機の間に人が入らないように注意してください。



3-3 トラクターと作業機の着脱に際しては、いつも逃げられる安全な態勢で操作し、このときトラクターは必ずブレーキで止めておいてください。

3-4 二人以上で着脱を行う場合は、互いに合図しましょう。

3-5 ジョイントのノックピンが確実にPTO軸溝に、又、作業機入力軸溝にはまつたか確認してください。

4 防護カバー類の取付け

4-1 ジョイントをはじめ、作業機のセフティカバー防護カバー類は必ず取付けてください。

5 装着時の前後バランスの確認

5-1 作業機とトラクターとのバランスの確認

作業機を装着すると機体の長さや幅が大きくなり、重量バランスが変わります。確認の上トラクターの前輪に20%以上のウェイトがかかるように、フロントウエイトを取付けてください。なお、作業機に泥が付着して、重くなる場合もありますので注意してください。又、アタッチメント等を取付けて使用される場合もバランスの確認を行い、フロントウエイトを取付けてください。



▲ 安全作業をもし怠ると傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります

5-2 作業機に他のアタッチメントを取付ける場合は、事前に必ずアタッチメントの取扱説明書を良く読んでください。

6 トラックへの積み・降ろし

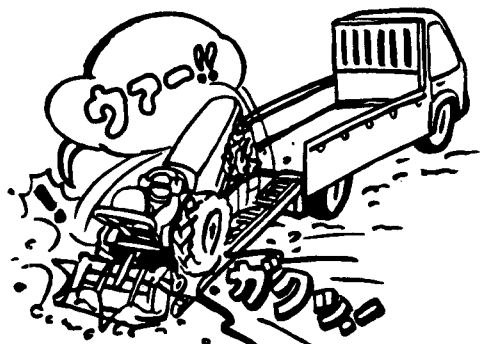
6-1 積み・降ろしの場所は平坦で安全なところを選びましょう。

6-2 すべり止めをした丈夫なアルミ板を確実に固定してください。傾斜角度、平行度を確認してください。

6-3 トラックは移動しないようにしっかりと車のサイドブレーキをかけてください。

6-4 トラクターの左右のブレーキペダルを連結し、脱輪しないように注意してください。又、途中でクラッチを切ったり、変速を中立にしないでください。低速で積み・降ろしをしてください。

6-5 作業機を装着しての積み・降ろしはトラクターの重量バランスが変わります。泥の付着等もあり、十分注意して行ってください。



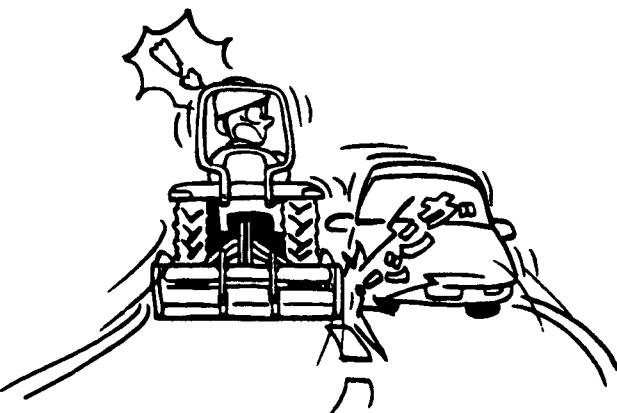
6-6 折りたためる作業機は折りたたみ、エクステンションエプロンもたたみ、トラックの荷台よりはみ出さないように注意し、強度が十分あるロープで確実に固定してください。

7 一般走行

7-1 トラクターは作業機を装着して公道を走行できません。

(道路運送車両の保安基準)

作業機を装着して走行すると、他の車や電柱などに引っかけて事故の原因になります。



7-2 トラクター・作業機には運転者以外の人を乗せないでください。



7-3 左右のブレーキペダルを連結して走行してください。



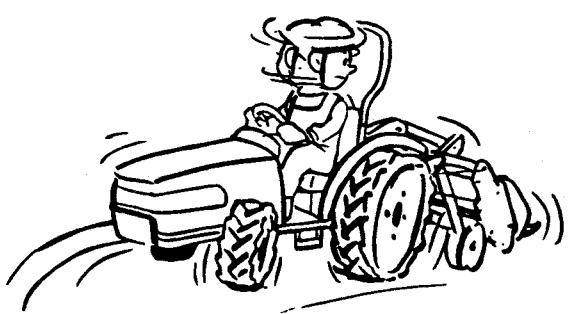
7-4 作業機の回転を止めて走行してください。

7-5 作業機の落下防止装置を必ず使用して走行してください。

7-6 必要以上の高速運転、急発進、急ブレーキ、急旋回をしないでください。

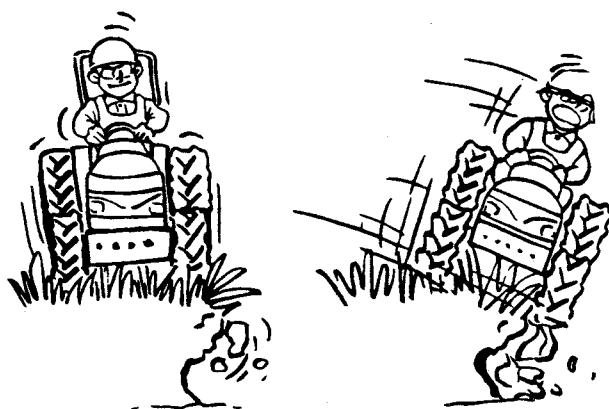
7-7 旋回するときは、作業機に人や物が接触しないように注意してください。

⚠ 安全作業をもし怠ると傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります



7-8 作業機は左右がトラクターの機体幅より広いため、走行時は十分注意してください。移動時は作業機の折りたためる箇所は折りたたみ走行してください。又、スタンドがついている場合も必ず外してください。

7-9 路肩に草が茂っている所を走行するときは特に路肩の強度に気を付けてください。



7-10 坂道では、クラッチを切ったり、変速を中止にしないでください。

7-11 坂道では、スピードを落とし、低速で走行してください。

7-12 坂道では、エンジンブレーキを使用し、急ブレーキをかけないでください。

8 地場への出入り

8-1 地場に入るときは、必ず前進で速度を下げて、うねや段差に対して直角に進んでください。

8-2 地場から出るときは、傾斜しているうねはバックで上るか、又は丈夫なアルミ板を使用してください。

8-3 うねや段差に対して斜め方向に進むと、横滑りや転倒する危険があります。作業機を低くして重心を下げ、直角に進めてください。

9 作業をしているとき

9-1 いねむり運転、わき見運転をしないようにあらかじめ体調を整えてください。

9-2 回転部分等、動く所には触れないでください。

9-3 作業中は、まわりに人を近寄らせないでください。特に子供には十分注意してください。補助作業者がある場合は、動作ごとに合図をかわしてください。



9-4 運転者が運転位置をはなれて作業機を調整する場合、又、爪軸等への草やワラのからみ付きを取りのぞく場合等は、必ずトラクターの駐車ブレーキをかけ、又、エンジンを停止し、かつ、PTO軸への動力の伝導が絶たれていることを確認した上で行ってください。



⚠ 安全作業をもし怠ると傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります

9-5 作業機の下にもぐったり、足をふみこんだりしないでください。



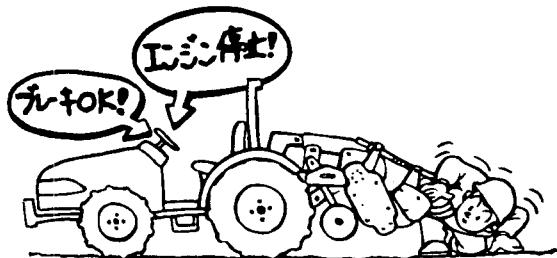
9-6 作業機のカバーは、土礫が飛散しないように調節してください。



9-7 ぬかるみにはまっても作業機は絶対に外さないで、他の車に引き上げてもらってください。牽引点は低くしてください。

10 作業中の点検

10-1 作業機の点検を行うときは、トラクターの駐車ブレーキをかけ、又、エンジンを停止し、かつ、PTO軸への動力の伝導が絶たれていることを確認した上で行ってください。又、油圧ロックも必ず行ってください。



10-2 点検のために外した防護カバーは、必ず元の通りに取付けてください。



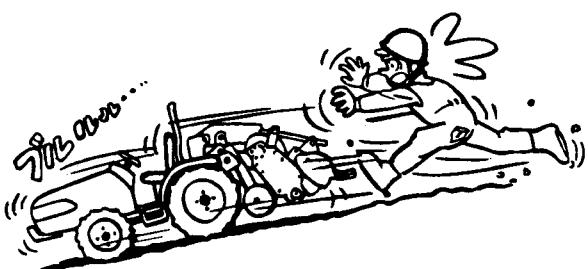
10-3 ラジエーター、マフラーは高温になりますので、ヤケドに注意してください。

10-4 点検整備に必要な工具類は、適切な管理を行い、正しい使用をしてください。

11 トラクターを止めるとき

11-1 平らな場所に止めてから、作業機を降ろしてエンジンを止め、駐車ブレーキをかけてください。

11-2 傾斜地に止める場合は、タイヤに必ず車止めをしてください。



12 その他

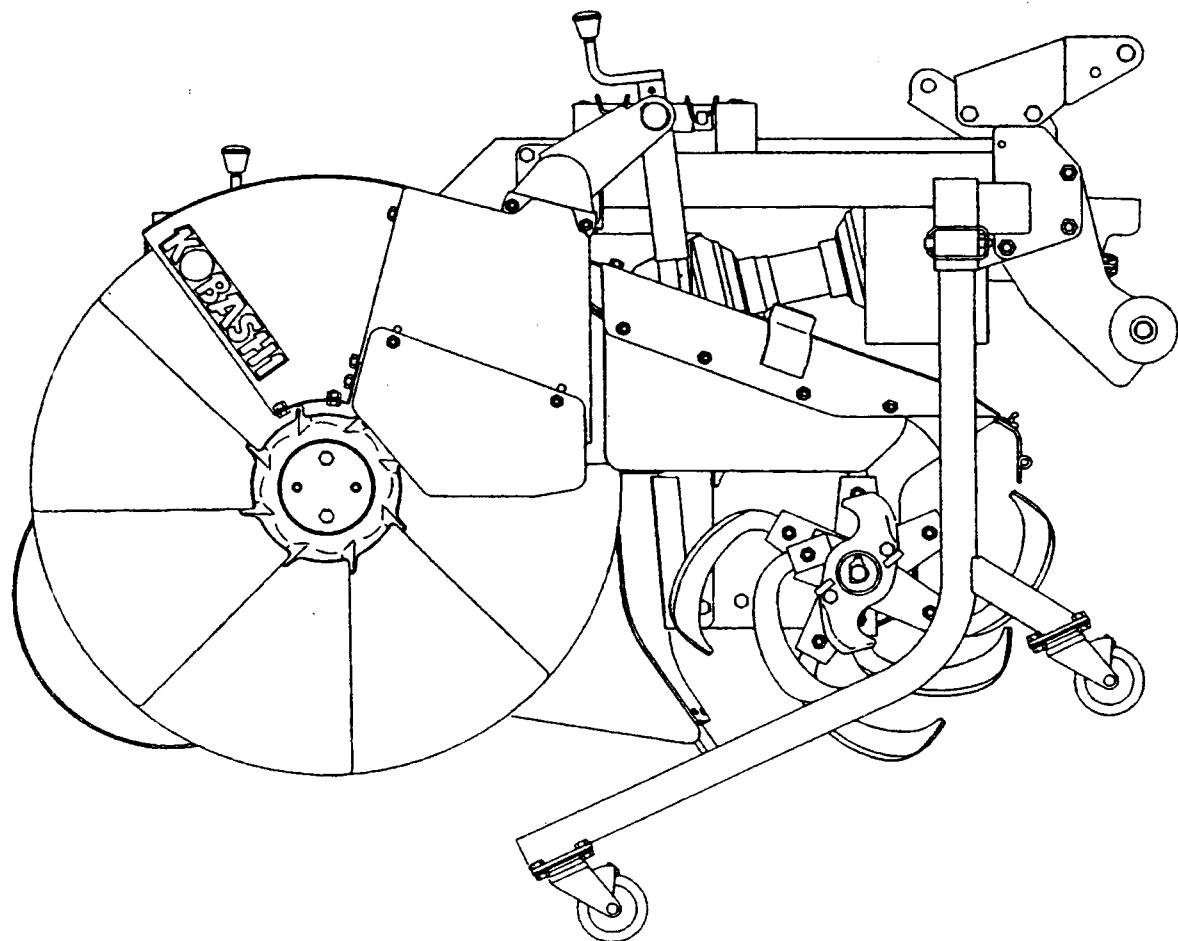
12-1 作業機指定のPTO回転数を守ってください。低速回転用の作業機を高速回転で使用すると作業機が異常作動し危険です。

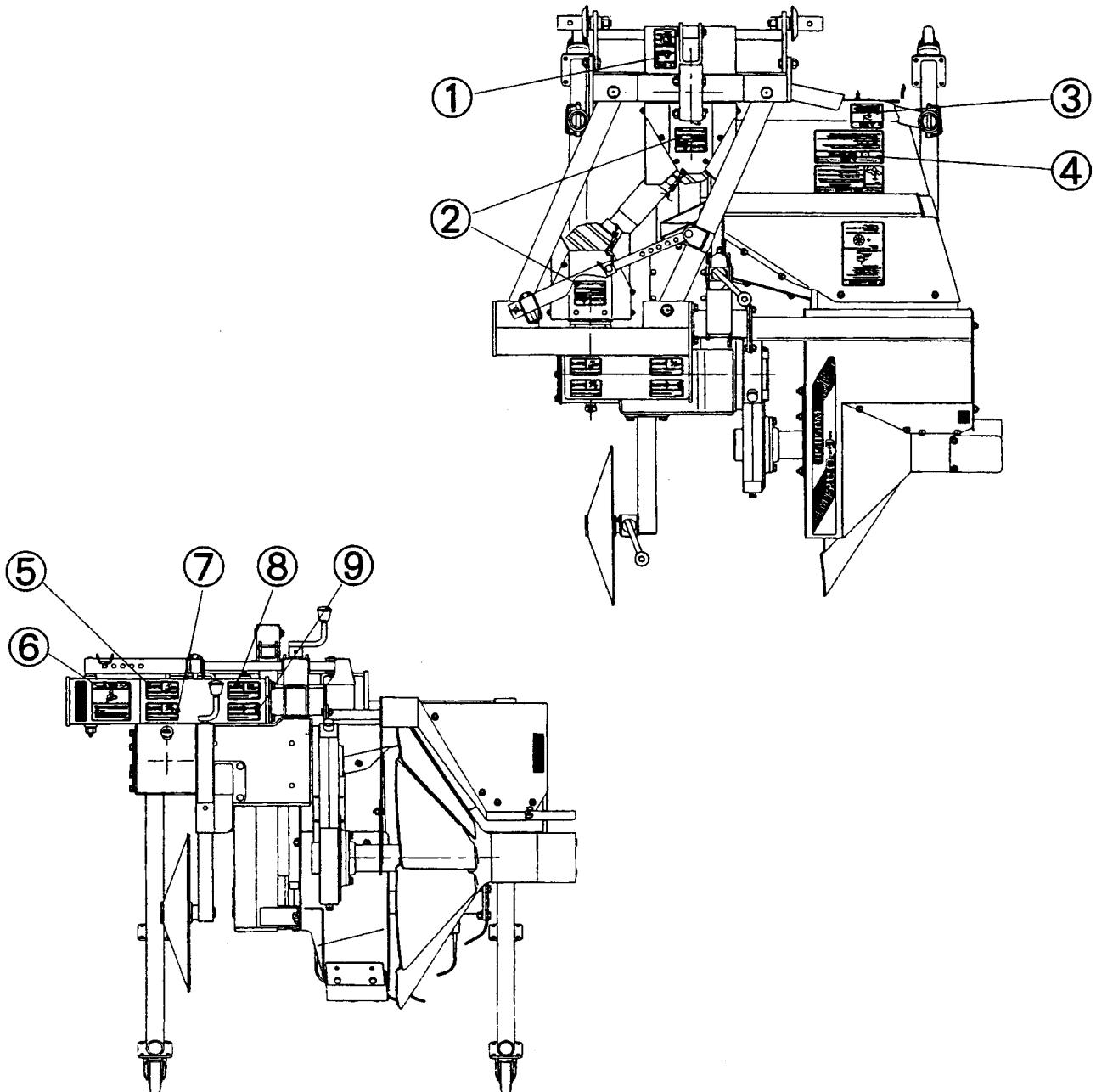
12-2 トラクターのエンジン始動時は、作業機が下がっていることを確認してください。作業機が不意に下がることもあり危険です。

安全ラベルの取扱い

- ① いつも汚れや泥をとり警告がハッキリと見えるようにしてください。
- ② 安全ラベルが損傷したり破損した時は、新しいものと交換してください。
- ③ 安全ラベルを貼ってある部品を交換した時は、必ず新しい部品に、取外した部品と同じ場所に安全ラベルを貼ってください。

コバシアゼローターには、次の安全ラベルが貼ってあります。よくお読みになって、理解した上で作業してください。

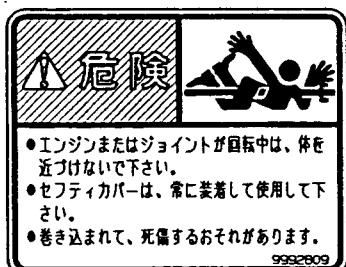




コードNo.9992126



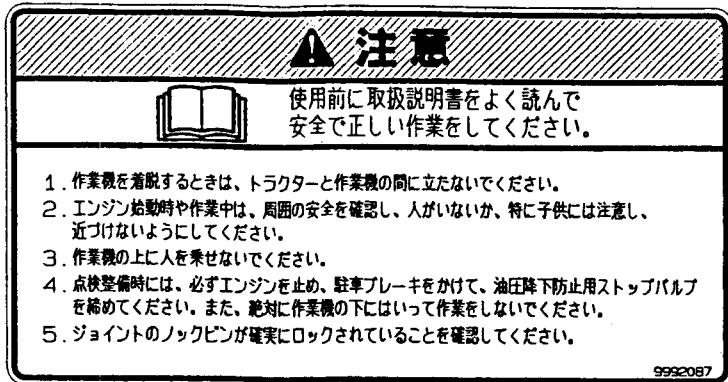
コードNo.9992809



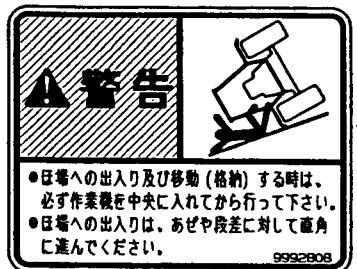
コードNo.9992074



コードNo.9992087



コードNo.9992808



④

⑤

コードNo.9992666



⑥

コードNo.9993281



⑦

コードNo.9993157



⑧

コードNo.9993280



⑨

サービスと保証について

1 保証書について

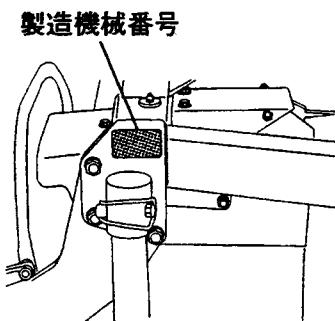
コバシアゼローターには保証書が添付してあります。保証書はお客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。保証内容は保証書をご覧ください。お読みになった後は大切に保管してください。

2 アフターサービスについて

機械の調子が悪いときに点検、処置してもなお不具合があるときには、下記の点を明確にして、お買い上げ頂いた販売店、農協、弊社営業所までご連絡ください。

その際

- 機械の型式名と製造機械番号
- ご使用状況（作業速度、回転数はいくらくで、どんな作業をしていたときに）
- どのくらい使用されましたか（約〇〇アール・約〇〇時間使用後）
- 不具合が発生したときの状況を、できるだけ詳しくお教えください。



補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打切り後 9 年といたします。

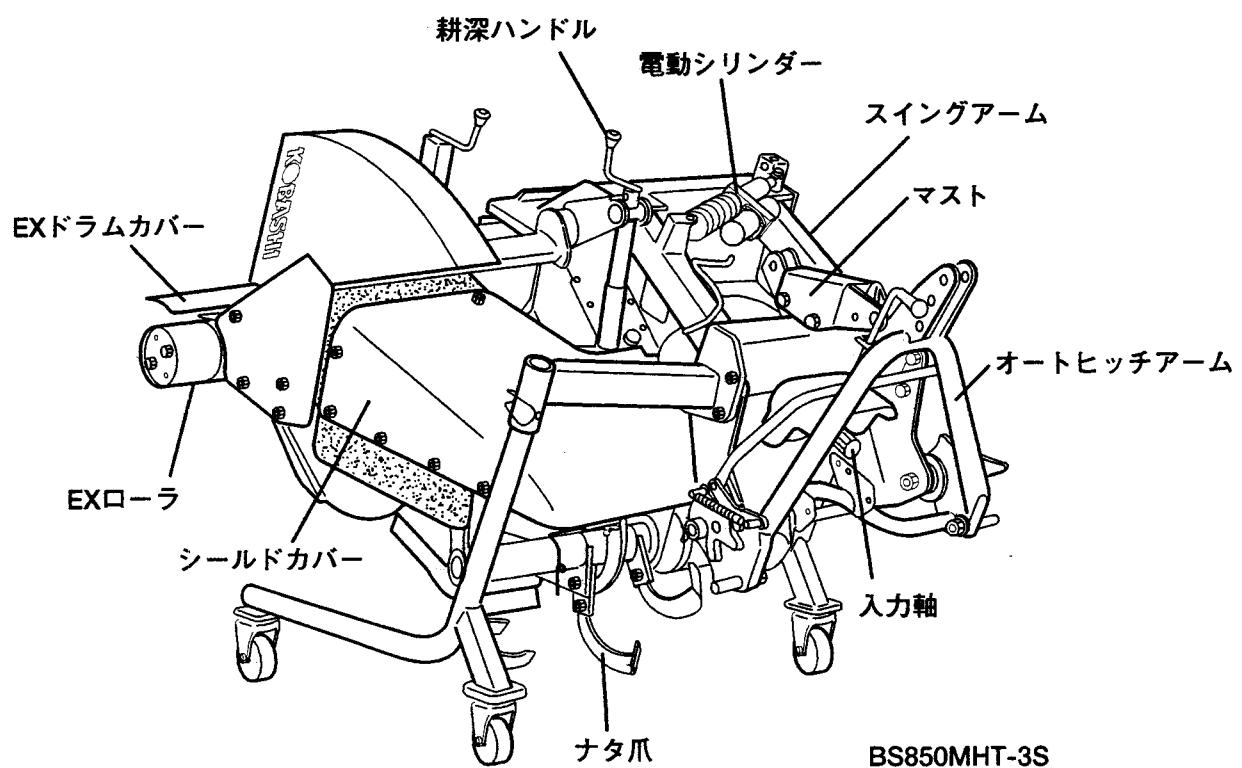
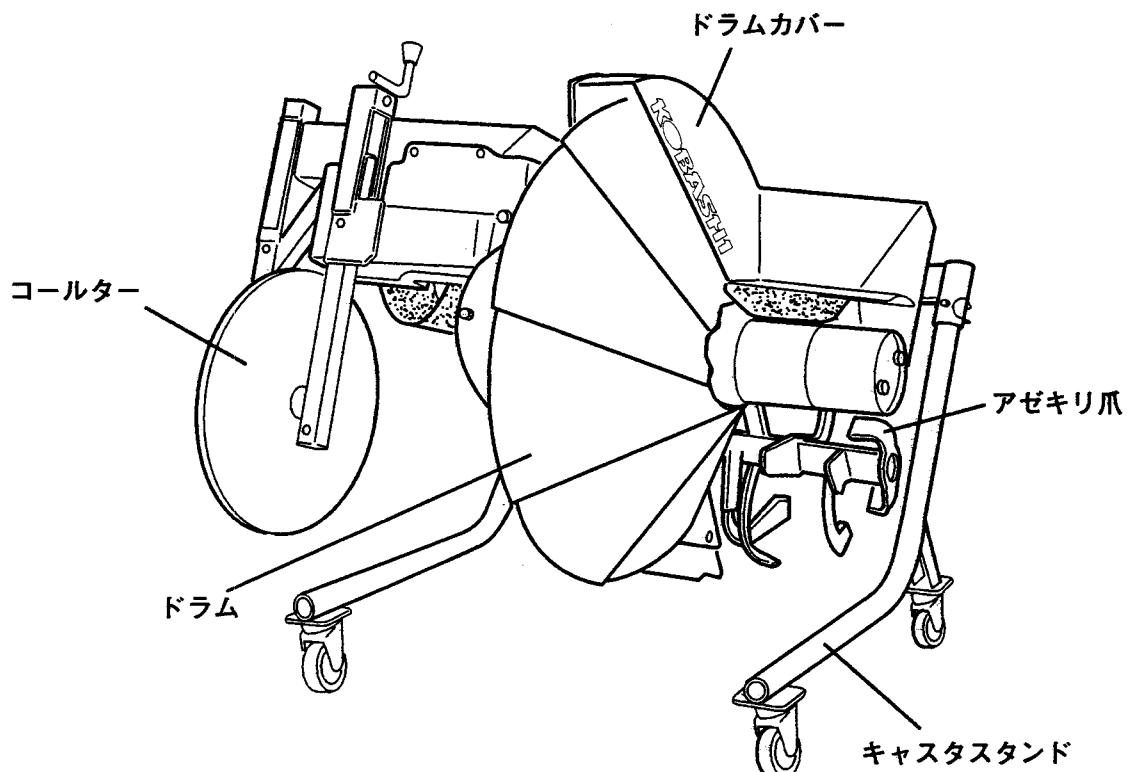
但し、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。

補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお求めください。市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

各部の名称



BS850MHT-3S

アゼローターの開梱

1. 開 梱

アゼローターは、木枠梱包されていますので開梱してください。

▲ 注意

木枠梱包には、スクリュウクギが使用されています。クギの踏み抜きなどないように注意して開梱してください。

標準装備品

部 品 名	数 量	摘 用	
オートヒッチ	1	4L、3Lのみ 4S、3Sのみ	
キャスタースタンド	2		
ジョイント	1	4L、3L 4S、3S、1Sのみ	
スイッチボックス 束線バンド ハーネスBS.ASSY	1 8 1	H仕様 のみ 同梱	ダンボール

- ◆アゼローター（BS850M）はマスト、ヒッチプラケットを交換することにより、日農工標準3P仕様、日農工特殊3P仕様（A-I形、A-II形、B形）、標準3P直装仕様にすることができます。交換部品は別途ご購入をお願いいたします。詳しくは販売店、農協にご相談ください。

ジョイントの取付準備

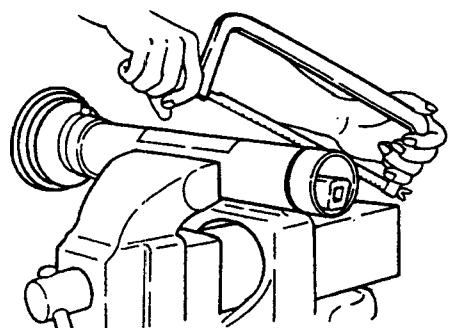
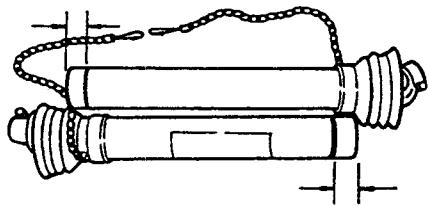
取扱い上の注意

長すぎるジョイントを装着しますと、トラクターのPTO軸と作業機の入力軸を突き破損させます。又、短かすぎますと、ジョイントのカミ合わせが不足して、チューブが破損します。

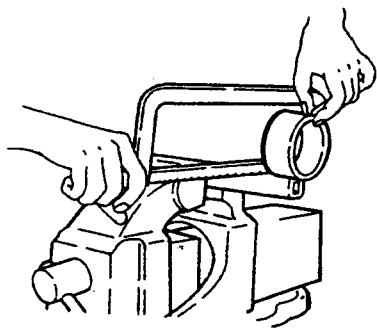
お願い 標準のジョイントがトラクターによつては、長い場合があります。トラクター別装着表（P.47～P.56）を参照の上、切断長さを確認の上、チューブとセフティカバーのオス側メス側を切断してください。

1 切断方法

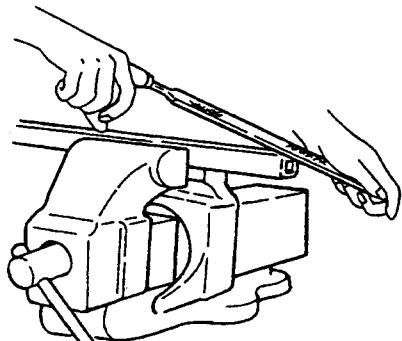
1. 長い分だけセフティカバーをオス、メス両方切りとります。



2. 切りとったセフティカバーと同じ長さでチューブを、金ノコ、又は、カッターでオス、メス両方切断します。



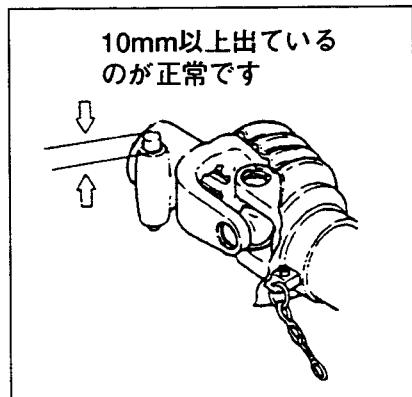
3. 切り口をヤスリでなめらかに仕上げ、切り粉を取除き、グリスを塗布して、オス、メスを組み合わせます。



2 取付方法

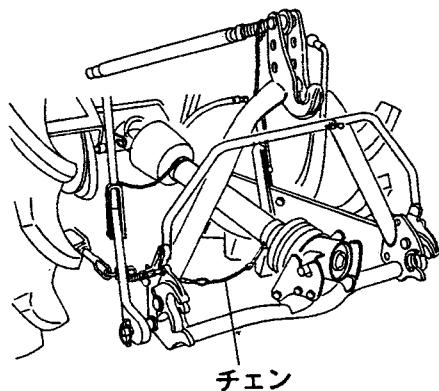
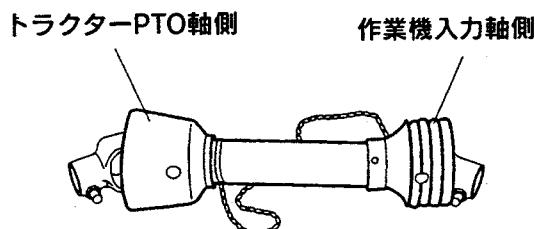
1. ジョイントの、ノックピンを押しながら軸に挿入、軸の溝にノックピンをはめ込み抜け止めとします。

ノックピンが正確に軸溝にはまっているか確認してください。ピンの「頭が10mm以上」でているか、トラクター側と作業機側のノックピンを確認してください。



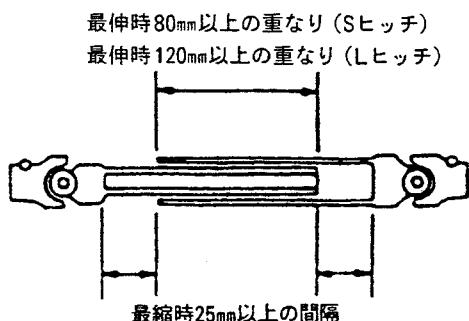
2. 広角ジョイントの取付方法

3セットの時に、広角ジョイントを取付ける場合は、必ず、広角側トラクターPTO軸にセットしてください。



3 長さの確認

1. トラクターの3点リンクにオートヒッチを取り付け、トップリンクの長さを指定の長さに調節してください。
(3セットの場合は、作業機を装着してから次の確認を行います。)
2. 油圧をいっぱいに下げる、4セットジョイントをセットしてください。
3. 徐々に油圧を上げて、ジョイントが一番縮んだ状態でも、軸を突き上げないことを確認してください。
4. 油圧を上下してカバーのスキマを確認してください。

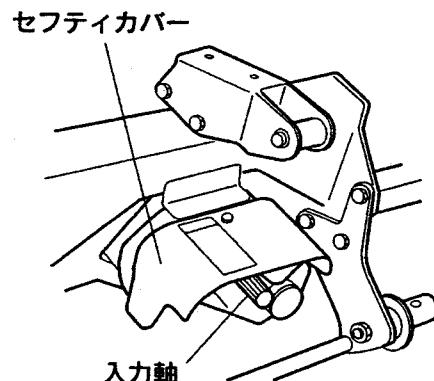


5. ジョイントセフティカバーのチェンを固定し、回り止めをします。この時油圧をいっぱいに下げてもチェーンが緊張しないようにならみをもたせてください。

4 入力軸セフティカバーの取付

▲ 危険

セフティカバーを取り外して使用すると死傷することがありますので、必ず取付けたままで使用してください。

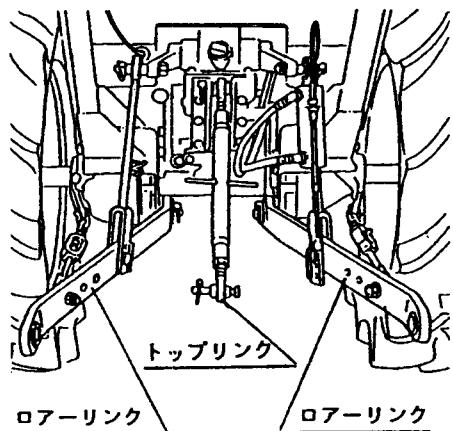


トラクターへの装着(日農工標準3Pヒッチ)

1 装着前の準備

1. トラクターの準備

本機の装着方法は標準3点リンク式のヒッチです。もし、トラクターに特殊3点リンク式のロータリーを装着されている場合は、トップリンクを標準3点リンク用の長いトップリンクと付け替えてください。また、ドローバーがジョイントに干渉する場合は、ドローバーの位置を変えるか、取外しをしてください。

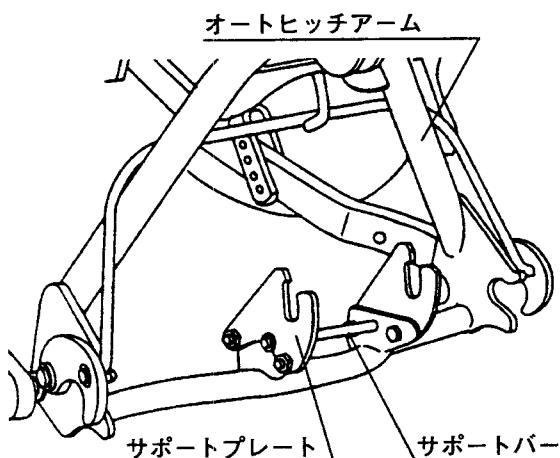


3点リンクの取付け位置は、本書のトラクター別装置寸法表41~47ページを参照の上、トップリンク長さやリフトロッド位置を確認、取付けてください。

2. オートヒッチの準備

4セットで使用する場合は、オートヒッチアームにジョイントをセットするサポートプレート、及び、サポートバーが確実に取付けてあることを確認してください。

3セットの場合はサポートプレート、サポートバーがないことを確認してください。

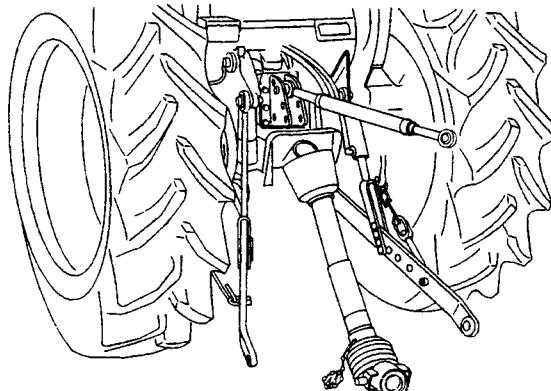


3. オートヒッチの取付け

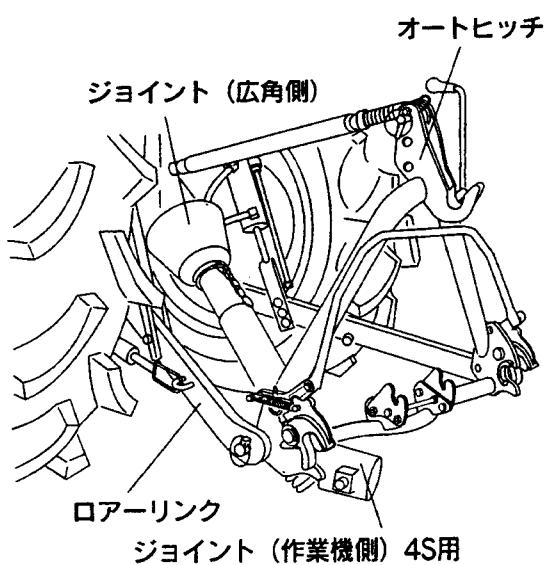
▲警告

トラクターの駐車ブレーキをかけ、又エンジンを停止し、PTO軸への動力が切れていることを確認してから作業してください。

- ① トラクターのポジションコントロールレバーを下げ、ロアーリンクをいっぱいまで下げる。トラクターのPTO軸にジョイントの広角側を取付け、作業機入力軸側は地面に置いてください。



- ② オートヒッチを、トラクターのトップリンクに取り付けます。

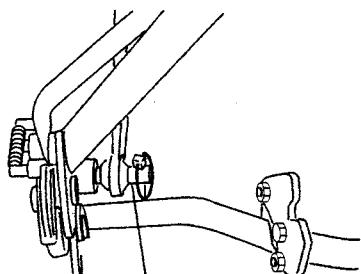


トップリンクピンはトラクターの付属品を使用してください。

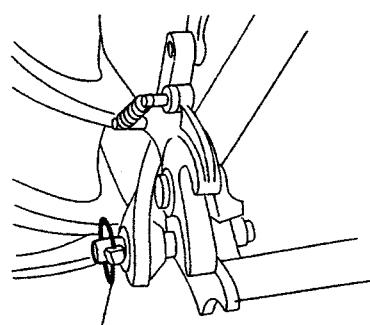
- ③ 左右のロアーリンクにオートヒッチのロアーリンクピンを取り付けてください。トラクターの3点リンク規格により、内側セットと外側セットがありますので規格に合わせてセットしてください。

JIS 0 …内側セット

JIS 1 …外側セット



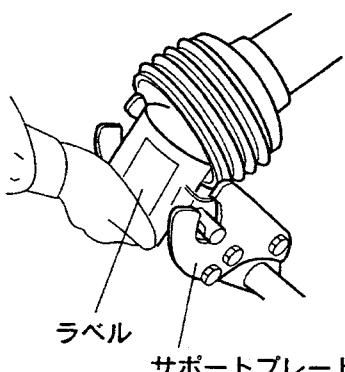
ロアーリンクピン (0型)



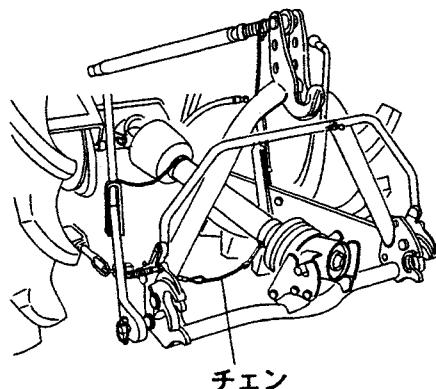
ロアーリンクピン (1型)

- ④ トラクターのPTO軸にジョイントの広角側を取付けます。

- ⑤ ジョイントのラベル面を上にし、手でジョイントを折り曲げ、軸の細い部分からサポートプレートの長穴にセットしてください。(4セットのみ)



- ⑥ ジョイントセフティカバーのチェンを固定し、回り止めをしてください。



- ⑦ チェックチェンを張ってオートヒッチをトラクターの中心に合わせてください。また、ロアーリングに左右の高さも均等にしてください。

▲ 注意

装着が終わりましたら、各部のトメピンやトップリンクの抜け止めが確実になされていることを確認してください。

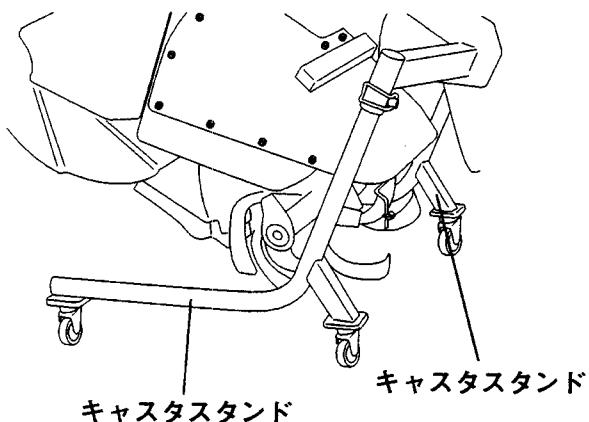
2 トラクターへの装着

▲ 注意

1. 平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりした場所で行ってください。
2. 夜間の場合は適切な照明を用いてください。
3. トラクターと作業機の間には人が入らないよう注意してください。
4. 二人作業の場合は互いに合図しあって作業をしてください。

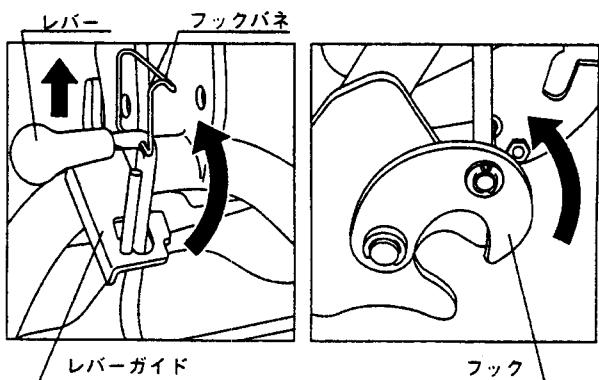
1. 作業機を装着姿勢に

キャスタースタンド左右を取付けてください。



2. オートヒッチフックのロックの解除

装着前に、フックバネを起こしてロックを解除し、レバーを真上に引き上げレバーの凸部をレバーガイドに引っ掛け、フックを開いておきます。

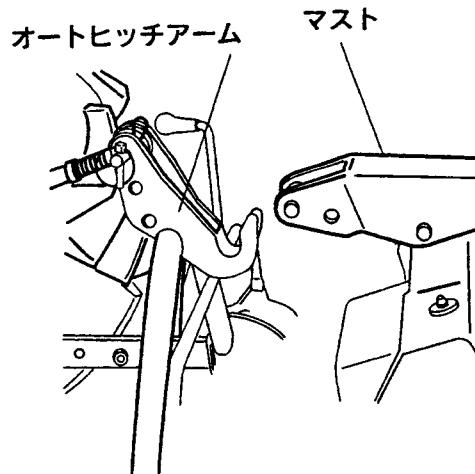


3. 取付け

バックしてヒッチを合わせる

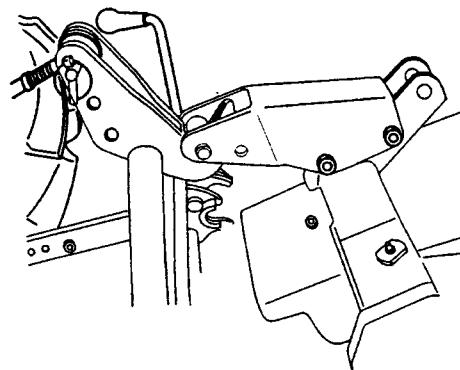
トラクターのPTOの変速はニュートラルにしておいてください。

オートヒッチを下げて、トラクターをゆっくり作業機に近づけ、作業機のマスト先端とオートヒッチのトップを合わせます。この時トラクターと作業機が直角になるようしてください。



4. フックを合わせてリフトアップ

ポジションコントロールレバーを「上げる」にして、作業機をゆっくりとリフトアップすると、オートヒッチのロアーフックとジョイントのクラッチ部は自動的に接続、ロックされます。ジョイントが噛み合わなかったりした場合はポジションコントロールレバーを下げる一度前進、再度最初からやり直してください。



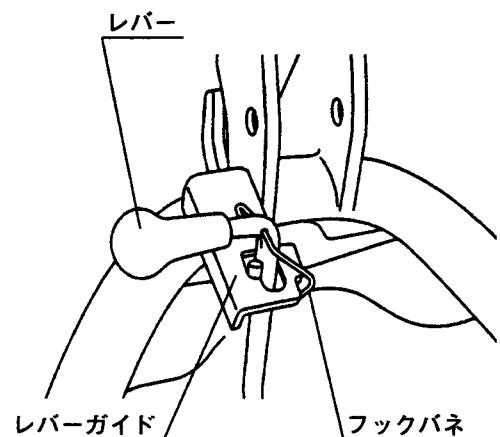
5. フックが確実にロックされたか確認してください。

▲ 注意

作業が終わって作業機を取り外すまでは、オートヒッチレバーは絶対に手を触れないでください。ロックが解除し作業機が外れます。

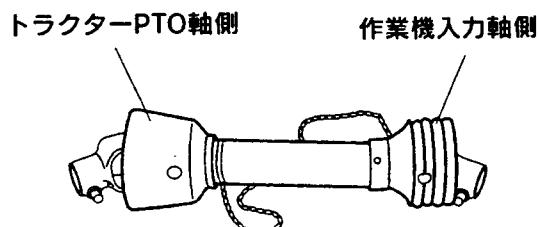
オートヒッチアームのフック部に作業機のガイドカラーが両側とも入っていることを確認してから、オートヒッチアームのレバーを下げてフックを閉じます。

レバーについているフックバネをレバーガイドに引っ掛け、不用意に作業機が外れないように確実にロックしてください。

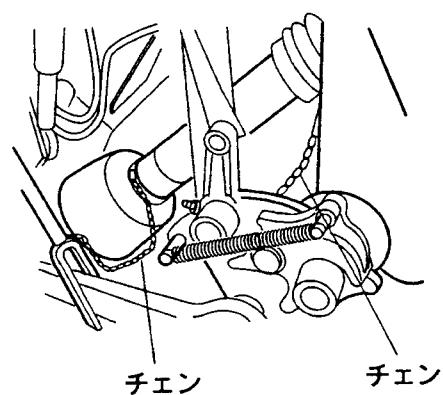


6. 広角ジョイントの取付方法

3セットのときに、広角ジョイントを取り付ける場合は、必ず、広角側をトラクターPTO軸に取付けてください。

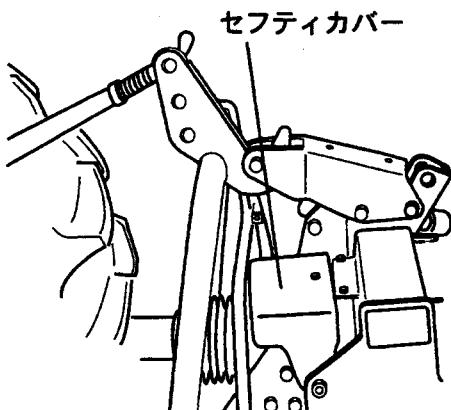


ジョイントセフティカバーのチェンを固定し、回り止めをします。この時作業機をいっぱい下げてもチェンが緊張しないようにたるみを持たせてください。



▲ 危険

セフティカバーを取り外して使用すると巻き込まれて死傷する事がありますので、必ず取付けたままで使用してください。



7. スタンドは取り外してください。

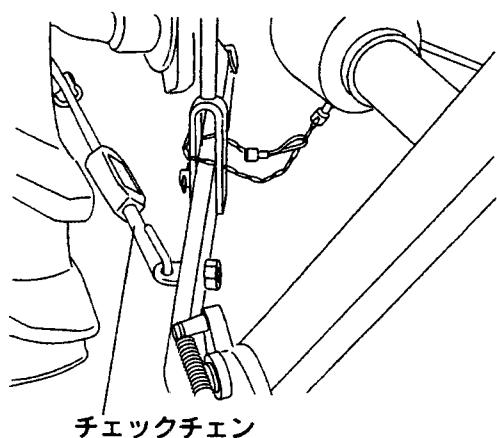
取扱い上の注意

- 最初の装着時には、油圧をゆっくりあげながら、トラクターと作業機が干渉しないか確認してください。特に、キャビン付きトラクターの場合には、背面のガラスを割らないように注意してください。
- トラクターによっては、スイッチ一つで自動で最上部まで上昇する機構がありますが、必ず手動で干渉の有無を確認してから使用してください。又、作業機が勢いよく上がるため10cm以上の余裕を持って上げ規制をしてください。
- ポジションコントロールレバーを徐々に上げて、ジョイントが一番縮んだ状態でもジョイントが突かないことを確認してください。
- トップリンクやロアーリンクの取付位置及び、リフトロッドやトップリンクの長さを変えた場合にも干渉の有無を確認してください。
- 左右の水平調節についても注意してください。

3 装着後のトラクターとの調整

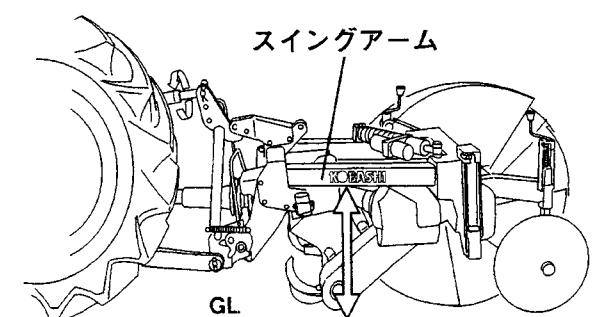
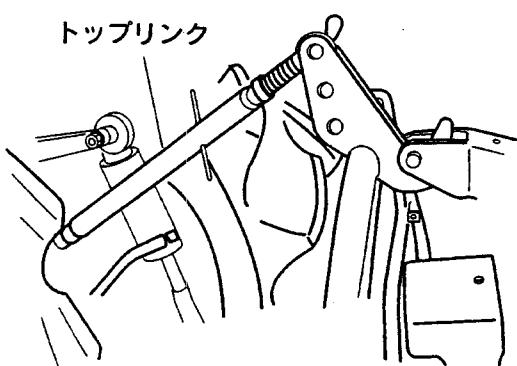
1. チェックチェンの調整(左右の振れ)

作業機を持ち上げた状態で、作業機の入力軸とトラクターのPTO軸を合わせて、左右の横振れを確認して、横振れが10mm以内になるように、左右均等にチェックチェンを張ってください。



2. トップリンクの調整(前後の傾き)

作業機を接地させ、スイングアームが水平になるようにトップリンクを調整してください。



▲ 注意

トップリンクの調整は、作業機を接地させて行ってください。トップリンクが抜けて作業機が落下することがあり、危険です。

3. リフトロッドの調整(左右の水平)

作業機を持ち上げ、左右が水平になるよう、トラクターのレベリングハンドル、又は、油圧スイッチを操作し、調整してください。

4. ジョイントの異音について

ジョイントは作業機の入力軸とが直線に近いほど異音は少なくなります。

取扱い上の注意

作業機を最上位置に上げた状態で回転させると、異音が発生し、ジョイントに無理がかかり、損傷の原因になります。回転しても振動や、音がでない位置にポジションコントロールレバーのストッパーをセットしてください。

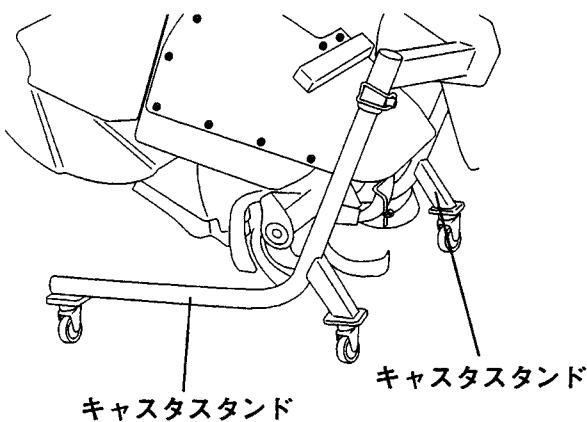
4 トラクターからの取外し

▲ 注意

1. 作業機を取り外す場合は、平坦で地盤のしっかりした所で、装着のためのスペースが十分とれるところで行ってください。
2. スタンドの取付けは作業機を中央に入れた状態で行ってください。トラクターから外した際、作業機が転倒する恐れがあります。

1. スタンドの取付け

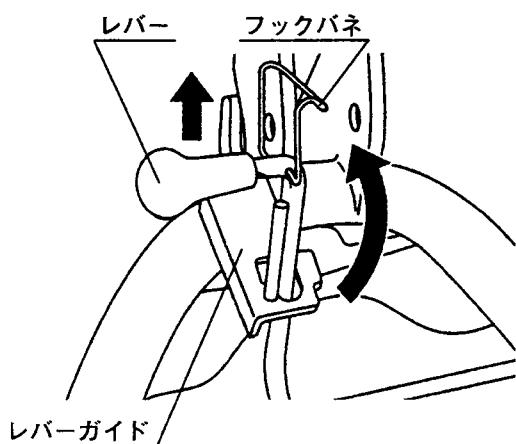
作業機を持ち上げて、キャスタースタンド左右を差し込みピンで固定します。(装着時と同じ状態に調整します。)



スタンドの取付は、作業機を中央に入れた状態で行ってください。(P.28~34参照)

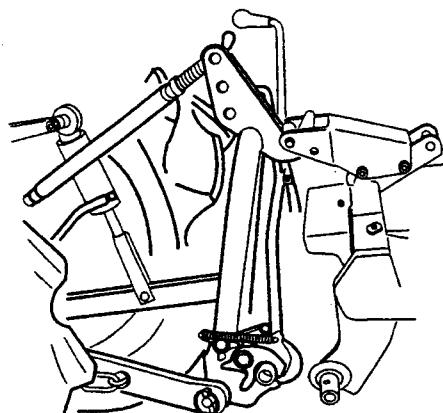
2. オートヒッチフックのロックの解除

作業機をリフトアップしてから、フックバネを起こしてロックを解除し、レバーを真上に引き上げてレバーの凸部をレバーガイドに引っ掛けて、フックを開きます。



3. 作業機を下げる

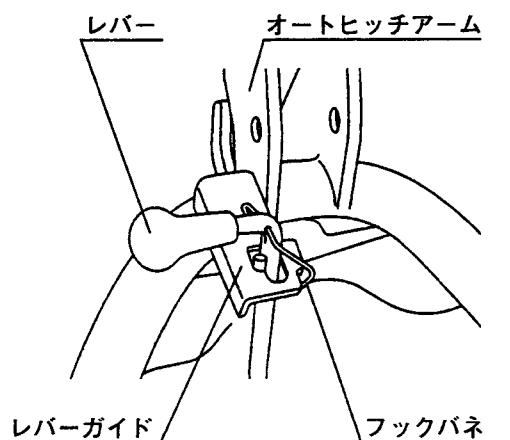
ポジションコントロールレバーを「下げる」にして、作業機を下げるときアーフック部は外れます。次にポジションコントロールレバーを下げながらトラクターをゆっくり前進させると作業機は外れます。



◆ はずれない場合は、場所が平坦でないとか、トラクターがまっすぐ前進していないなどの原因がありますので、再度、動作をやり直してください。

▲ 注意

トラクターから作業機を外し、オートヒッチを作業機に取付けて格納する場合には、必ず落下防止のRピンを差し込んで、オートヒッチの落下防止をしておきましょう。

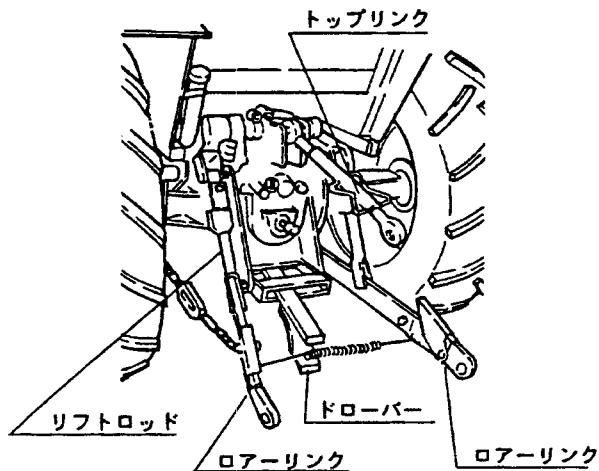


トラクターへの装着 (日農工標準オートヒッチ) Lヒッチ (1・2形)

1 装着前の準備

1. トラクターの準備

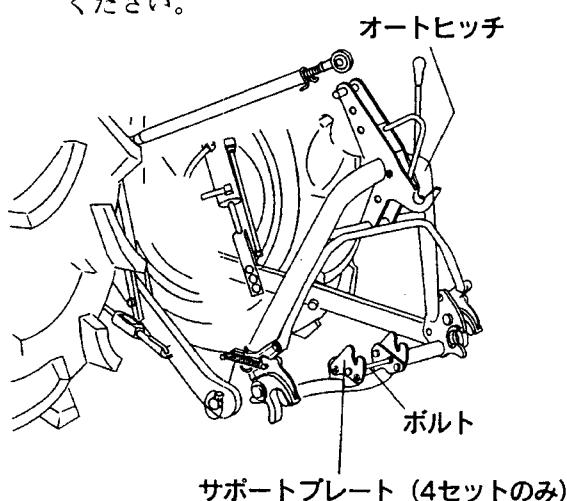
本機の装着方法は標準3点リンク式のヒッチです。もし、トラクターに特殊3点リンク式のロータリーを装着されている場合は、トップリンクを標準3点リンク用の長いトップリンクと付け替えてください。又、ドローバーも外してください。



取付位置は、本書のトラクター別装着寸法表P.54～P.56を参照の上、トップリンク長さやリフトロッド位置を確認、取付けてください。

2. オートヒッチの準備

4セットで使用する場合は、オートヒッチにジョイントをセットするサポートプレート、及び、ボルトが確実に取付けてあることを確認してください。3セットの場合はサポートプレート、ボルトがないことを確認してください。

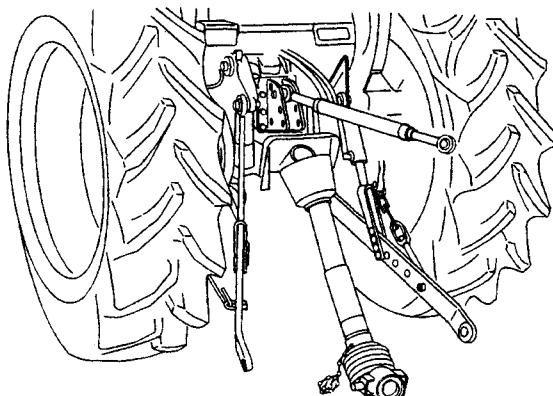


3. トラクターへのオートヒッチの取付

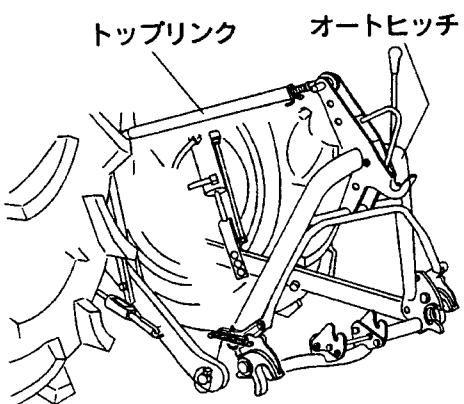
▲ 注意

トラクターの駐車ブレーキをかけ、又、エンジンを停止し、PTO軸への動力が切れていることを確認してから作業してください。

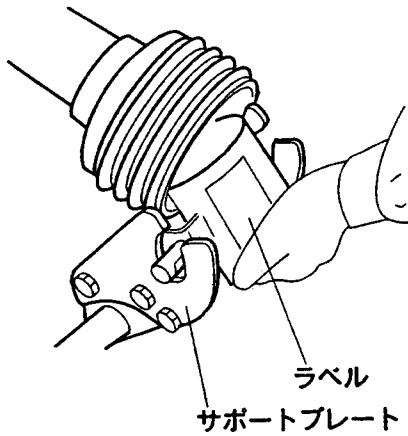
- ① トラクターのポジションコントロールレバーを下げ、ロアーリンクをいっぱいまで下げる。トラクターのPTO軸にジョイントの広角側を取り付け、作業機入力軸側は地面に置いてください。(4セットの場合)



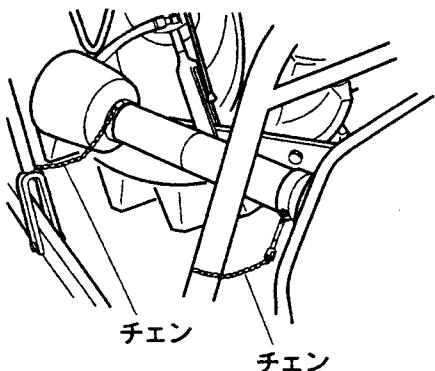
- ② オートヒッチを、トラクターのトップリンクに取付けます。



- ③ 左右のロアーリンクにオートヒッヂピンを取付けてください。
- ④ ジョイントのラベル面を上にし、手でジョイントを折り曲げ、軸の細い部分からサポートプレートの長穴にセットします。
(4セットのみ)



- ⑤ ジョイントとセフティーカバーのチェンを固定し、回り止めをしてください。



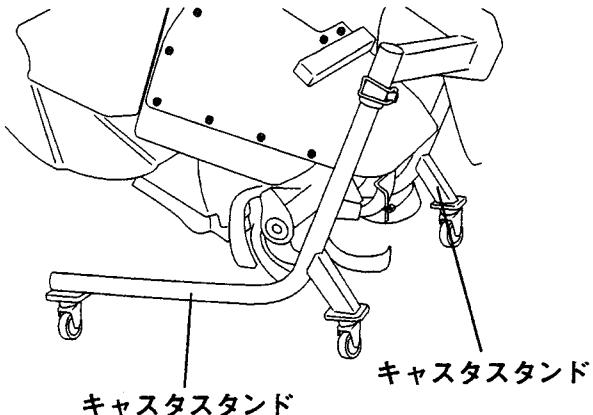
- ⑥ チェックチェンを張ってオートヒッチをトラクターの中心に合わせてください。
又、ロアーリングの左右の高さも均等にしてください。

▲ 注意

装着が終わりましたら、各部のトメピンやトップリンクの抜け止めが確実になされていることを確認してください。

1. 作業機を装着姿勢に

キャスタースタンドを取付けてください。



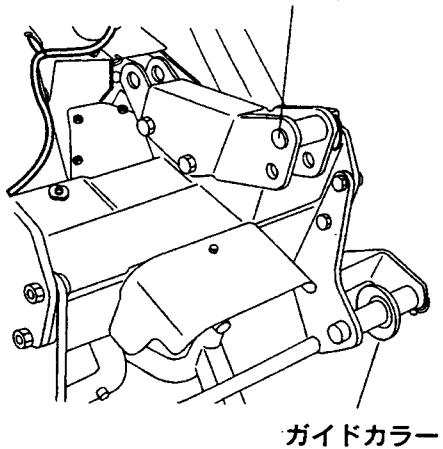
▲ 注意

- スタンドの取付は、作業機を中央に入れられた状態で行ってください。
- トラクターから外した際、作業機が転倒するおそれがあります。

2. ヒッチブラケットのガイドカラー、マストのピン位置の確認

ヒッチブラケットのガイドカラーセット位置と、マストのピン位置をLヒッチの状態にセットしているか確認してください。

マストのピン（上穴）



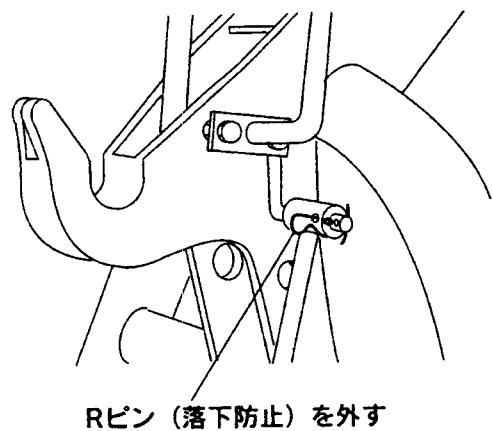
2 トラクターへの装着

▲ 注意

1. 平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりした場所で行ってください。
2. 夜間の場合は適切な照明を用いてください。
3. トラクターと作業機の間には入らないよう注意してください。
4. 二人作業の場合は互いに合図しあって作業してください。

3. 落下防止のRピンを外す

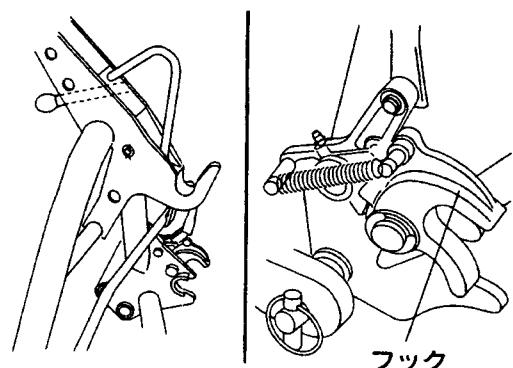
装着前には、オートヒッチに取付けてある落下防止のRピンを必ず外しておきます。外したRピンは紛失しないよう下の穴にさしこんでください。



Rピン（落下防止）を外す

4. オートヒッチフックのロックの解除

オートヒッチのレバーを真上に引き上げ、ロックを解除してフックを開いておきます。



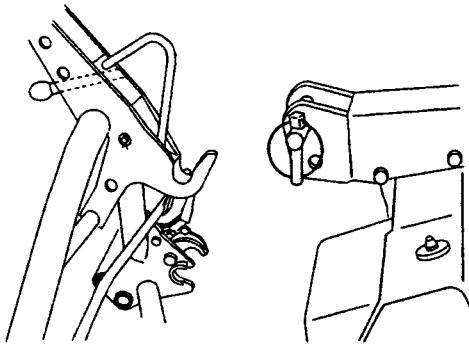
フック

5. 取付

バックしてヒッチを合わせる

トラクターのPTOの変速はニュートラルにしておいてください。

オートヒッチを下げて、トラクターをゆっくり作業機に近づけ、作業機のマスト先端とオートヒッチのトップを合わせます。この時トラクターと作業機が直角になるようにしてください。



6. フックを合わせてリフトアップ

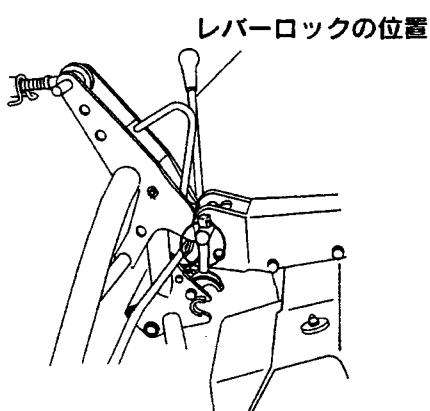
ポジションコントロールレバーを「上げる」にして、作業機をゆっくりとリフトアップすると、オートヒッチのロアーフックとジョイントのクラッチ部は自動的に接続、ロックされます。

ジョイントが噛み合わなかったりした場合は、ポジションコントロールレバーを下げて一度前進、再度最初からやり直してください。

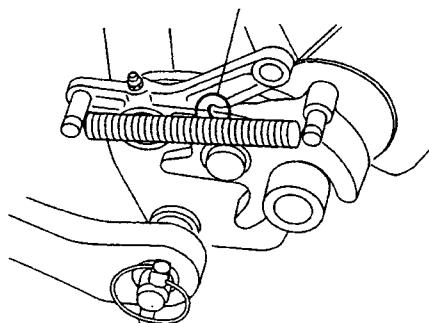
7. フックが確実にロックされたか確認してください。

▲ 注意

作業が終わって作業機を取り外すまでは、レバーには絶対に手を触れないでください。ロックが解除し作業機が外れます。



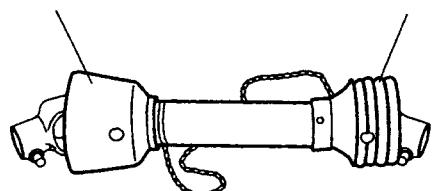
フックのロック状態



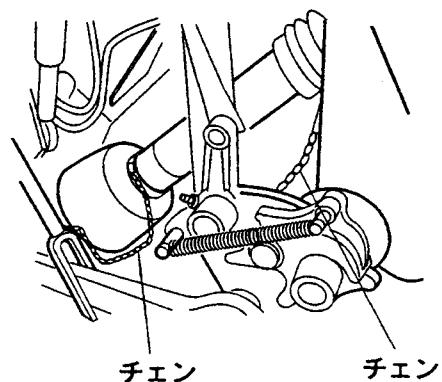
8. 広角ジョイントの取付方法

3セットのときに、広角ジョイント取付ける場合は、必ず、広角側をトラクターPTO軸に取付けてください。

トラクターPTO軸側 作業機入力軸側



ジョイントセフティカバーのチェンを固定し、回り止めをします。この時作業機をいっぱい下げてもチェンが緊張しないようになるみを持たせてください。



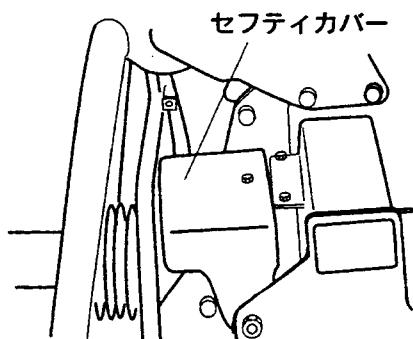
▲ 危険

セフティカバーを取り外して使用すると、死傷することがありますので必ず取付けたままで使用してください。

8. スタンドは取外してください。

取扱い上の注意

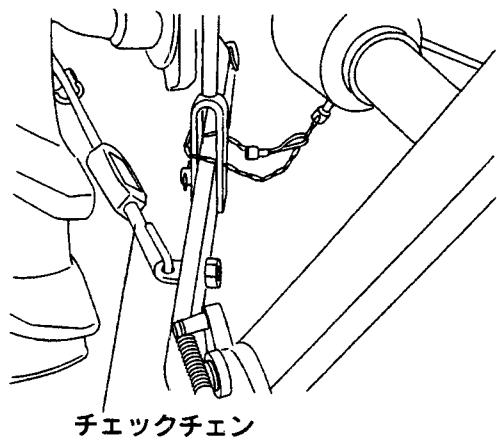
- 最初の装着時には、油圧をゆっくりあげながら、トラクターと作業機が干渉しないか確認してください。特に、キャビン付きトラクターの場合には、背面のガラスを割らないように注意してください。
- トラクターによっては、スイッチ一つで自動で最上部まで上昇する機構がありますが、必ず手動で干渉の有無を確認してください。又、作業機が勢いよく上がるため10cm以上の余裕を持って上げ規制をしてください。
- ポジションコントロールレバーを徐々に上げて、ジョイントが一番縮んだ状態でもジョイントが突かないことを確認してください。
- トップリンクやロアーリンクの取付位置及び、リフトロッドやトップリンクの長さを変えた場合にも干渉の有無を確認してください。
- 左右の水平調節についても注意してください。



3 装着後の調整

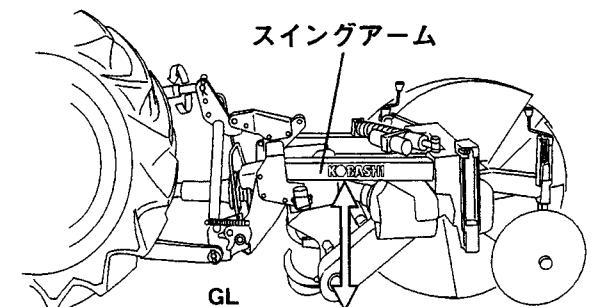
1. チェックチェンの調整(左右の振れ)

作業機を持ち上げた状態で、作業機の入力軸とトラクターのPTO軸を合わせて、左右の横振れを確認して、横振れが10mm以内になるように、左右均等にチェックチェンを張ってください。



2. トップリンクの調整(前後の傾き)

作業機を接地させ、スイングアームが水平になるようにトップリンクを調整してください。



▲ 注意

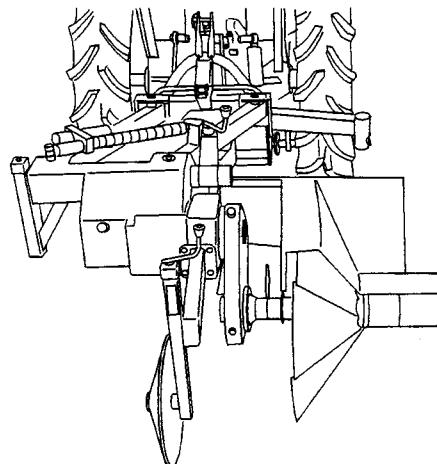
作業機を装着後、トップリンクの調整が必要な場合、作業機を接地させて行ってください。トップリンクが抜けて作業機が落下することがあります。危険です。

取扱い上の注意

作業機を最上位置に上げた状態で回転させますと、異音が発生し、ジョイントに無理がかかり、損傷の原因になります。回転しても振動や、音がでない位置にポジションコントロールレバーのストッパーをセットしてください。

3. リフトロッドの調整(左右の水平)

作業機を持ち上げ、ギヤーケースCONPが水平になるように、トラクターのレベルハンドル、又は、油圧スイッチを操作し、調整してください。



4. ジョイントの異音について

ジョイントは作業機の入力軸とが直線に近いほど異音は少なくなります。

4 トラクターからの取外し

▲ 注意

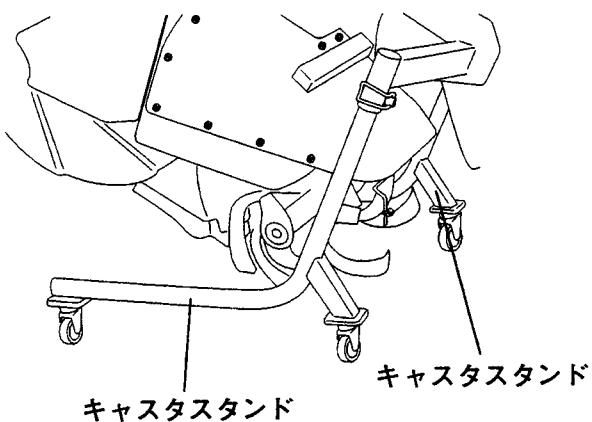
作業機を取外す場合は、平坦で地盤のしっかりした所で、装着のためのスペースが十分とれるところで行ってください。

1. スタンドの取付

作業機を持ち上げて、キャスタースタンドを差し込み、ピンで固定します。(装着時と同じように取付けます)

▲ 注意

スタンドの取付けは、作業機を中心に入れた状態で行ってください。トラクターから外した際、作業機が転倒するおそれがあります。



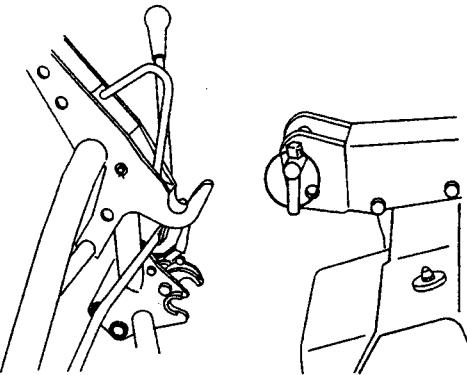
スタンドの取付けは、作業機を中心に入れられた状態で行ってください。(P.28~P.34参照)

2. オートヒッチフックを取り外し位置に

作業機を持ち上げて、ロックレバーを下げ、オートヒッチフックリンクを解除位置にして、フックを取り外しての位置にします。

3. 作業機を下げる

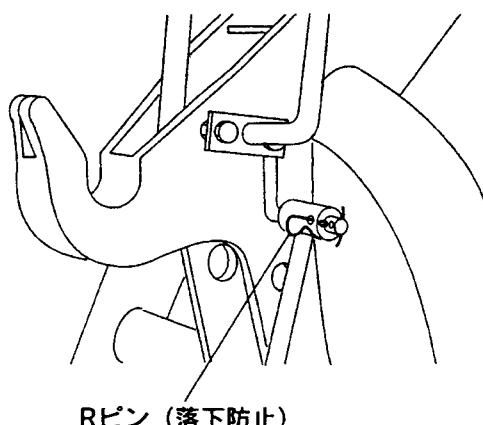
ポジションコントロールレバーを「下げる」にして、作業機を下げるときアーフック部は外れます。次にポジションコントロールレバーを下げながらトラクターをゆっくり前進させると作業機は外れます。



◆ 外れない場合は、場所が平坦でないとか、トラクターがまっすぐ前進していないなどの原因がありますので、再度、動作をやり直してください。

▲ 注意

トラクターから作業機を外し、オートヒッチを作業機に取付けて格納する場合には、必ず落下防止のRピンを差し込んで、オートヒッチの落下防止をしておきましょう。



トラクターへの装着（日農工特殊3Pヒッチ）

(BS750M-S, BS750M-T, BS750M-U)

いずれの型式も、トラクターに装着されている純正ロータリーと同様の手順で、作業機の取付け、取外しができます。又、純正ロータリーのオートヒッチ、トップリンク、ジョイントがそのまま使用できます。

◆メーカーによりオートヒッチの呼び名が異なりますので注意してください。

① トラクターへの装着

トラクターにより、装着手順が異なります。お手持ちの、トラクター及び、純正ロータリーの取扱説明書に従って装着してください。装着後にスタンドを取外してください。

▲ 危険

セフティカバーを取り外して使用すると、巻き込まれて死傷することがありますので、必ず取付けたままで使用してください。

▲ 注意

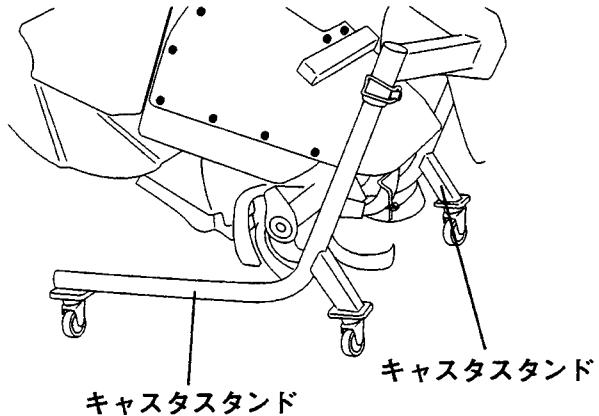
- 平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりした場所で行ってください。
- 夜間の場合は適切な照明を用いてください。
- トラクターと作業機の間には人が入らないよう注意してください。
- 二人作業の場合は互いに合図しあい注意して作業してください。

1. トラクターの準備

ロアーリング、リフトロッドは、純正ロータリーと同じ位置(特3P)で、又、オートヒッチはロアーリングに取付けた状態で本作業機は装着できます。

2. 作業機の準備

作業機の着脱を容易にするため、作業機の両側にキャスタースタンドを取付けます。



3. トラクターへの装着

トラクターにより、装着手順が異なります。お手持ちの、トラクター及び、純正ロータリーの取扱説明書に従って装着してください。装着後にスタンドを取外してください。

▲ 危険

セフティカバーを取り外して使用すると、死傷するがありますので、必ず取付けたままで使用してください。

▲ 注意

作業が終わって作業機を取外すまでは、オートヒッチのロックレバーには絶対に手をふれないでください。ロックが解除し作業機がはずれます。

取扱い上の注意

- 最初の装着時には、油圧をゆっくりあげながら、トラクターと作業機が干渉しない確認してください。特に、キャビン付きトラクターの場合には、背面ガラスを割らないように注意してください。
- トラクターによっては、スイッチひとつで自動で最上部まで上昇する機構がありますが、必ず手動で干渉の有無を確認してから使用してください。又、作業機が勢いよく上がるため10cm以上の余裕を持って上げ規制をしてください。
- トップリンクやロアーリングの取付穴位置、及びリフトロッドやトップリンクの長さを変えた場合にも干渉の有無を確認してください。
- 左右の水平調節についても注意してください。

2. 取外し

純正ロータリーの取扱説明書に従い同様な手順で取り外してください。

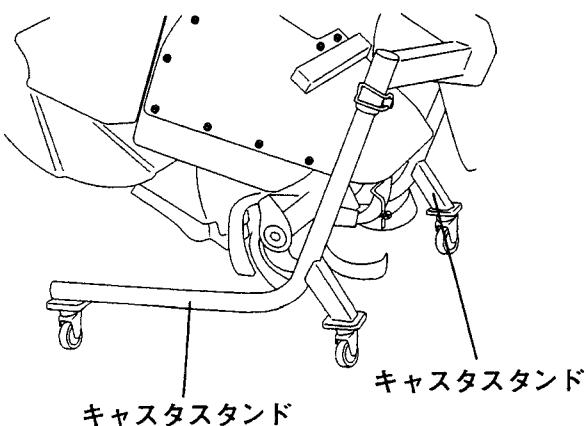
2 トランクからの取外し

1. スタンドの取付

作業機の両側に、キャスタースタンドを取付けてください。

▲ 注意

スタンドの取付けは、作業機を中心に入れられた状態で行ってください。トランクから外した際、作業機が転倒するおそれがあります。



スタンドの取付けは、作業機を中心に入れられた状態で行ってください。(P.28~P.34参照)

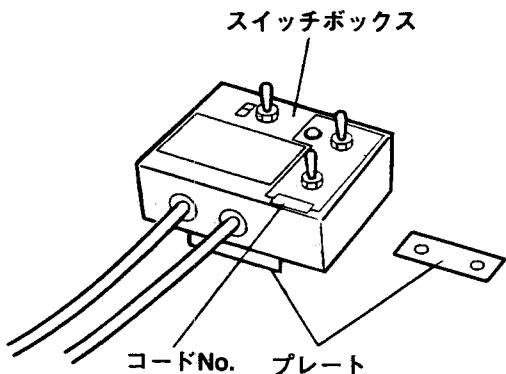
オフセット操作（電動油圧シリンダー）

(BS850MH)

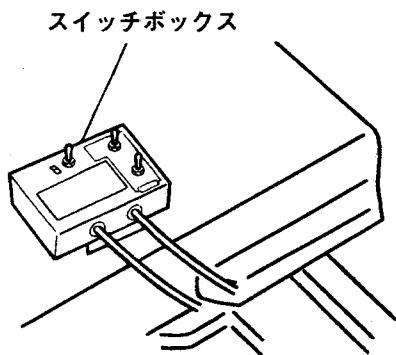
① スイッチボックスの取付

- スイッチボックスの裏側はマグネットタイプになっています。

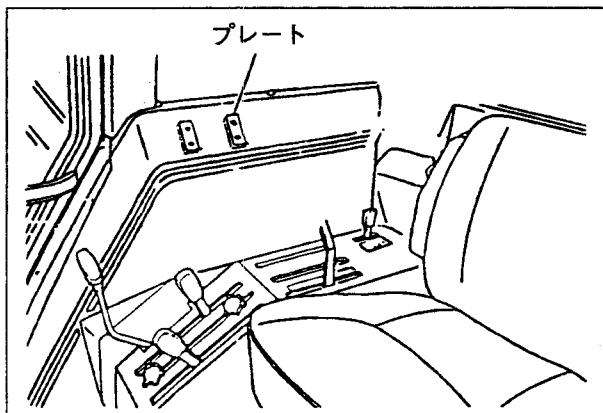
取付ける前にマグネットに付いているプレートを外してからフェンダに張付けます。



- スイッチボックスを運転席横のフェンダ等に取付けます。



- マグネットが使えない場合は、プレート2枚をスイッチボックス取付け箇所へネジ止めしてください。(ネジは別途購入してください。)



② 電源コードの接続

取扱い上の注意

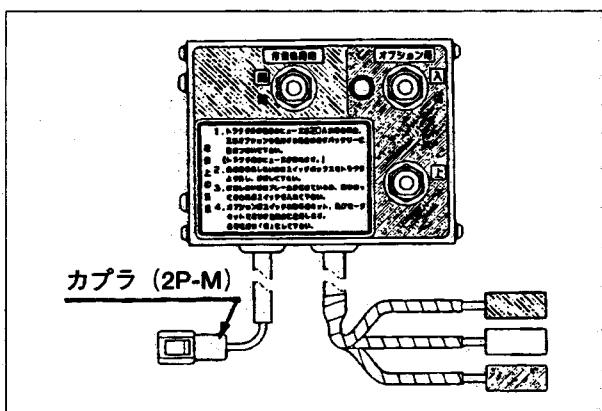
- トラクターの外部電源取り出しヒューズが20A未満の場合又は、電動油圧シリンダー以外のオプションを使用する場合は、電源カプラに接続せず必ずハーネス BS.ASSYを使用しバッテリに接続してください。(守らないとトラクタ側のヒューズが切れます。)
- 電源カプラが2P-F以外の場合はハーネス BS.ASSYを使用し、バッテリに接続してください。

A. 電源カプラに接続する場合

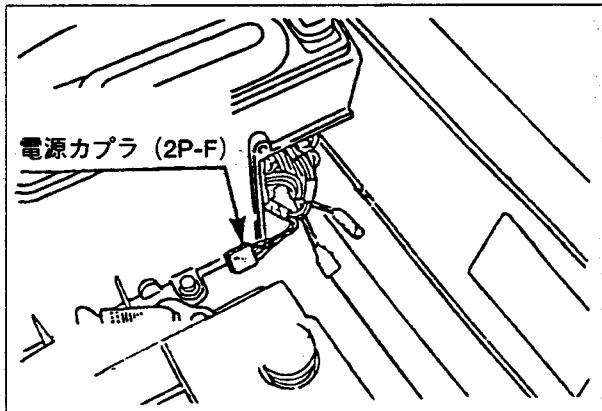
スイッチボックスのカプラ(2P-M)をトラクタの電源カプラ(2P-F)に接続します。

(付属のハーネスBS.ASSYは使用しません。)

スイッチボックス側カプラ



トラクター側電源カプラ



電源カプラの位置はトラクターにより異なります。

B. トラクターのバッテリにハーネスを接続する場合

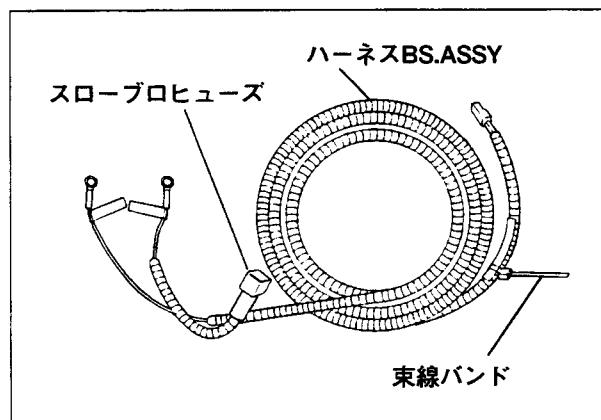
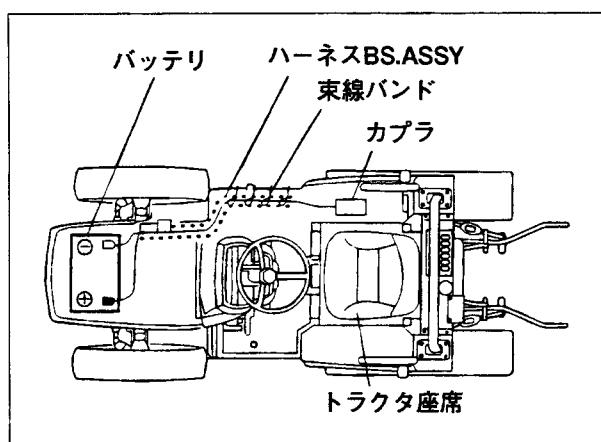
▲ 警告

1. ハーネスBS.ASSYをバッテリに接続するときは、(+) (-) に注意してください。(+) (-) を逆に接続すると、ショートして火災になる恐れがあります。

▲ 注意

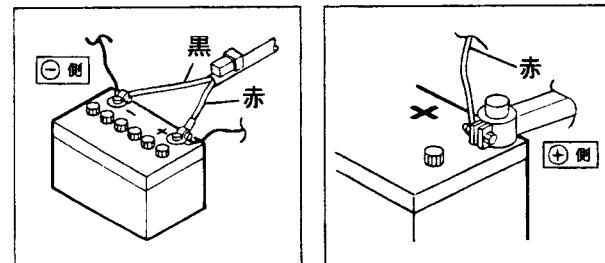
1. ハーネスBS.ASSYが損傷している場合は、絶対に使用しないでください。(守らないとショートする恐れがあります)
2. 接続できるバッテリ電圧は12Vです。24Vのバッテリには絶対に接続しないでください。あやまって接続すると、スイッチボックスASSY等を破損し、ショートする恐れがあります。
3. ぬれた手でバッテリや接続部に触れないでください。あやまって触れると、感電する恐れがあります。
4. バッテリ (+) 端子への取付け及び取外し作業は、アース側の (-) 側ケーブルがターミナルから取外されていることを確認した上で、行ってください。守らないと工具等がトラクターのボディに当たった場合にショートして危険です。
5. 長期間使用しない場合は、必ずトラクターのバッテリからハーネスBS.ASSYを取り外して保管してください。守らないとハーネスBS.ASSYを損傷し、ショートする恐れがあります。
6. ハーネスBS.ASSYの取付け及び取外し手順は、必ず取扱説明書通りに行ってください。守らないと工具等がトラクタのボディに当たった場合にショートして危険です。

1. バッテリへの取付け



- (1) トラクターのエンジンを止め、電源を切ってからエンジンキーを抜いてください。
- (2) バッテリに取付けられているアース側の (-) 側ケーブルをターミナルから取外してください。
- (3) ハーネスBS.ASSYの (+) 側 (赤色線) 丸端子を、バッテリの (+) 側のケーブルのネジ部に取付けた後、確実に締まっていることを確認してください。
- (4) アース側の (-) ケーブルをバッテリの (-) 側ターミナルに取付け、ハーネスBS.ASSY の (-) 側 (黒色線) 丸端子を、バッテリの (-) 側ケーブルのネジ部に取付けた後、確実に締まっていることを確認してください。

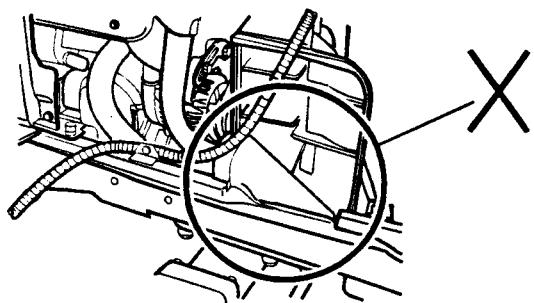
(+) 側詳細図



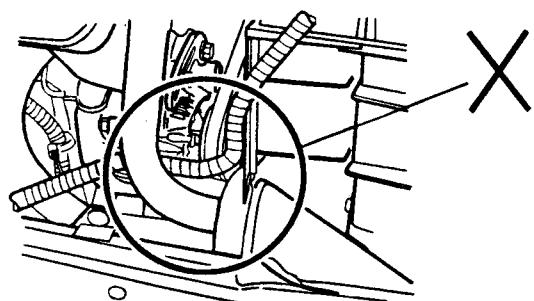
- (5) ハーネスがたるまないように付属の束線バンドでトラクターに固定してください。特にスイッチボックス側のコネクタ付近は、複数箇所固定してください。

▲ 注意

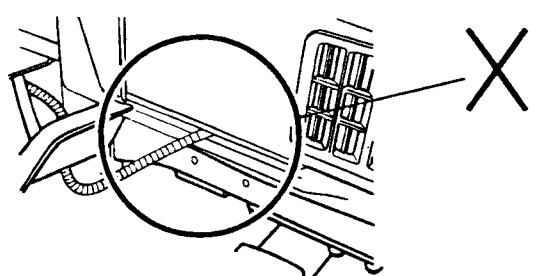
1. トラクターの高温部箇所（マフラー等）には、ハーネスBS.ASSYを取付けないでください。高温でハーネスBS.ASSYが溶けて危険です。



2. 回転物（ファンベルト、冷却ファン等）や可動する物に接触しないように取付けてください。ハーネスBS.ASSYが切れてショートする恐れがあります。

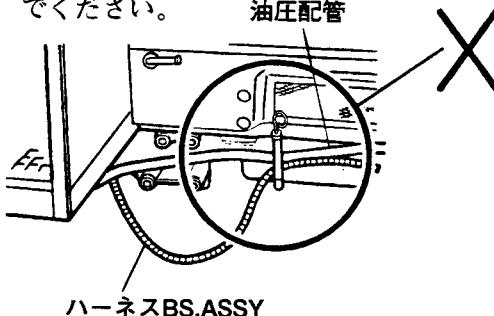


3. ハーネスBS.ASSYが鋭利なものに接触したり、カバー、シート、キャビンのドア等に挟みこまれないように取付けてください。ハーネスの被覆がはがれて危険です。



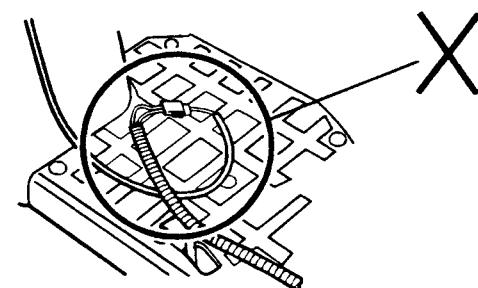
4. トラクターフレームの下側にハーネスBS.ASSYが垂れ下がった状態にしないでください。障害物に引っかかりショートする恐れがあります。

5. 油圧配管にハーネスBS.ASSYを固定しないでください。 **油圧配管**



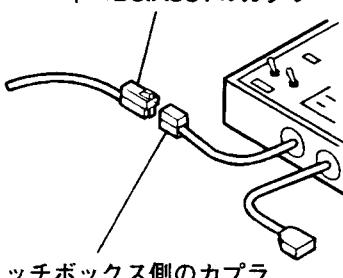
6. トラクター可動部にハーネスBS.ASSYを固定しないでください。

7. 運転席の足元でハーネスBS.ASSYがたるまないように固定してください。たるんでいると足に引っかかりショートする恐れがあります。ハーネス部及びカプラ部は足で直接踏み付けられる様な場所に配線しないでください。またカプラ付近での固定を確実に行ってください。



- (6) ハーネスBS.ASSYのカプラをスイッチボックス側のカプラに取付けてください。

ハーネスBS.ASSYのカプラ



スイッチボックス側のカプラ

○なおハーネスBS.ASSYでバッテリまで届かない場合は、延長用のハーネスキットAを使用してください。

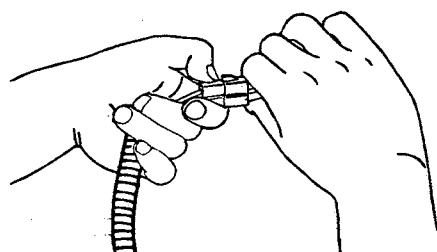
(オプション=品目コード:7660582、長さ:1m)

1. バッテリからの取外し

- (1) トラクターのエンジンを止め、電源を切つてからエンジンキーを抜いてください。
- (2) スイッチボックス側のカプラ部を取り外してください。

▲ 注意

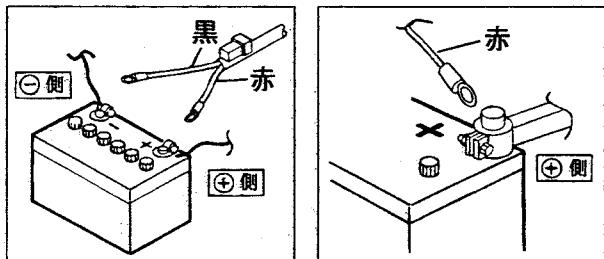
1. カプラを取り外す場合は、ロック用の爪部分を押さえながら取り外してください。この時、絶対に配線を引っ張って取り外さないでください。守らないとカプラが破損し、端子が剥き出しになりショートして危険です。



- (3) バッテリに取付けられているアース側の(-)側ケーブルをターミナルから取り外してください。

- (4) ハーネスBS.ASSYの(+)側(赤色線)丸端子を、バッテリの(+)側ケーブルから取り外した後、ネジを元通りに確実に締め付けてください。

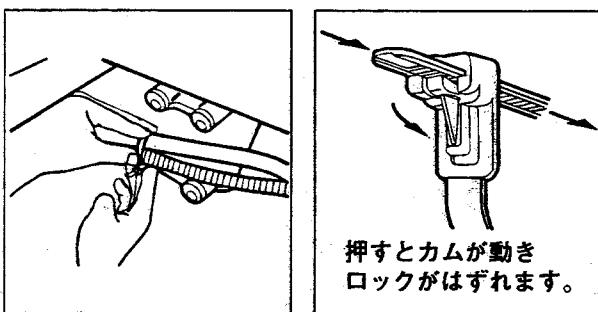
(+) 側詳細図



- (5) ハーネスBS.ASSYの(-)側(黒色線)丸端子をバッテリの(-)側ケーブルから取り外してください。

- (6) アース側の(-)ケーブルをバッテリの(-)側ターミナルに取付けた後、ネジが確実に締まっていることを確認してください。

- (7) 束線バンドを取り外してから、ハーネス BS.ASSYを取り外してください。



※ハサミ等で切らないでください。

- (8) 取外した部品は、安全な場所に大切に保管してください。

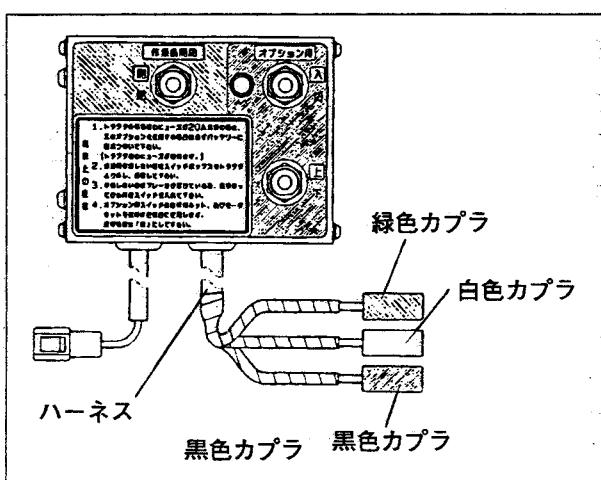
3. スロープローヒューズについて

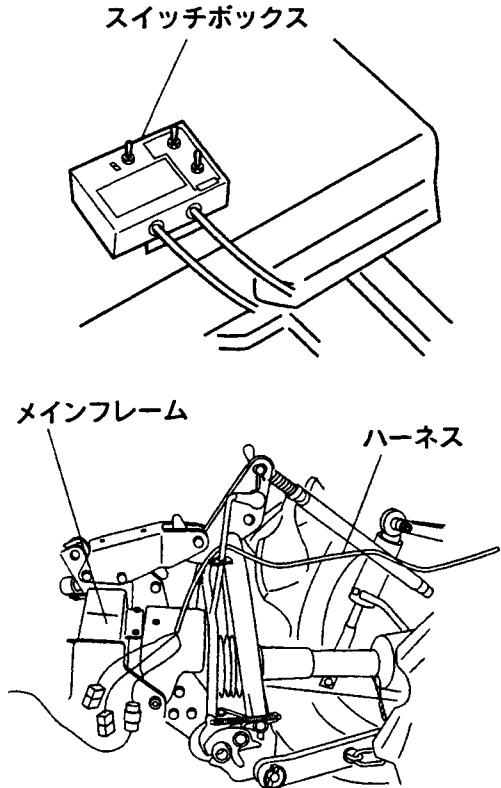
- スロープローヒューズは、ショートした場合に配線を保護するためのものです。
- もし切れた場合は、すみやかに購入された販売店に相談し、切れた原因の確認と処置を行ってください。
- 交換する時は、必ず純正部品を使用してください。(品目コード:7660857)(部品名:スロープローヒューズ)(規格40A)
- ヒューズの交換は、必ずエンジンを停止し、スイッチボックスの電源を切った上で行ってください。
- 交換後は元通りにカバーを閉じてください。

3 作業機への接続

1. ハーネスの配線

- ① ハーネスを図の様にトラクターの後部から作業機のメインフレーム右側上部へと配線します。





- ② 配線後は、付属の束線バンドでトラクター後部のハーネスのみ固定してください。このとき、トラクターおよび作業機の鋭利なコーナーに接触しないよう、又ポジションコントロールレバーの上下操作によりハーネスが、張らないように余裕を持たせてください。

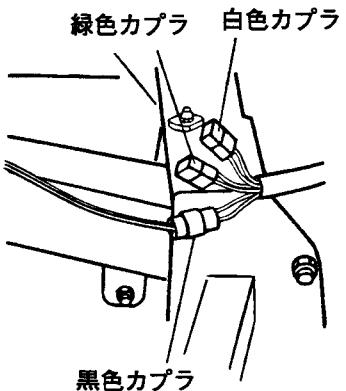
ハーネスが引張られた場合、作業機側のカプラとスイッチボックス側のカプラが外れる様にする為、スイッチボックス側ハーネスは作業機側に固定しないでください。

▲ 注意

配線後、作業機を上下してもハーネスが引張られたり、折り曲げのないことを確認してください。

- ③ スイッチボックス側ハーネスのカプラと作業機側ハーネスのカプラを接続します。
- 1) 黒色カプラ→シリンダー（作業機開閉）
 - 2) 白色カプラ→オプション用（除草剤キット）

- 3) 緑色カプラ→オプション用（耕深キット）



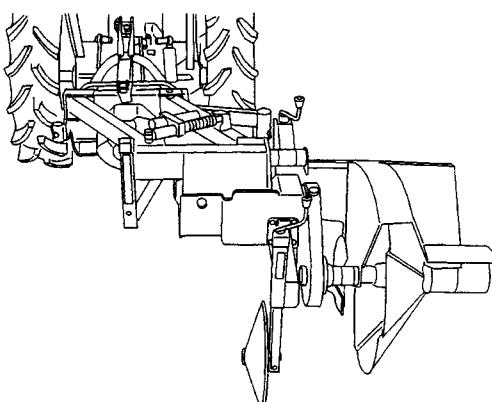
- ④ 作業機をトラクターから取外す場合は、カプラを先に外してから行ってください。

4 取扱い上の注意

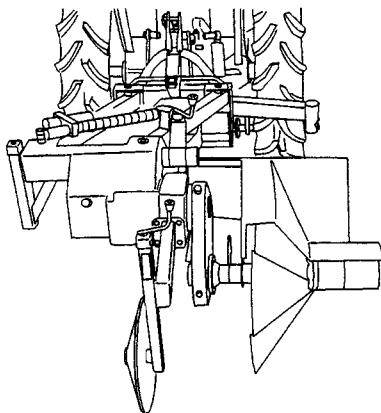
1. 配線後は作業機を上下させてハーネスが引っ張られたり、ジョイントやタイヤ等に接触しないか確認してください。
(引っ張られると断線する場合があります)
2. スイッチを「開」「閉」(入り・切り)しながらゆっくり作動させ、ハーネスの引っ掛けがないか確認してください。
3. オプション用スイッチは除草剤キットを取付けた場合に使用します。通常電源は「切」にしてください。

5 操作と取扱いの注意

1. スイッチは前後に倒すと作動します。
作業機開閉
(開→作業機が外側へ移動します。)



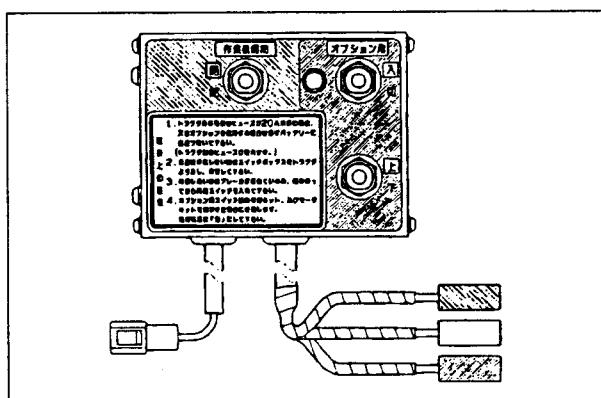
(閉→作業機が中央へ移動します。)



オプション用

- [入]**→オプションの除草剤キットを取付けた場合、スイッチボックスのランプが点灯し除草剤を噴霧します。
- [切]**→除草剤の噴霧を止めます。
- [上]**→オプションの耕深キットを取付けて耕深を浅くします。
- [下]**→耕深を深くします。

【注意】 オプション用上側スイッチは除草剤キットを取り付けた場合に使用します。通常電源は「切」にしてください。



▲ 注意

1. 開閉時、手などがはさまれないよう注意してください。
2. 開閉操作は、周囲に人がいないことを確認してください。作業機で怪我をすることがあります。

① オプションキットを取付けた場合

- (1) スイッチの操作は、必ず1カ所ずつ行ってください。2カ所を同時に操作するとヒューズが切れことがあります。

(2) 除草剤キットを取付けた場合は、作業終了後、必ず、電源を「切」にしてください。

②

- (1) 洗車時にはスイッチボックスに水がかからないように防水保護をしてください。
- (2) 作業終了後はシリンダ（銀色部）に付いた泥汚れを除去してください。

2. スイッチが作動しない時は、ブレーカーが落ちている為しばらく待ってから再度スイッチを入れてください。

▲ 注意

トラクターから離れる時は、必ず、キーを抜き取ってください。

また、電源をバッテリー接続にしている場合は電源用コードのカプラを、必ず、抜いてください。守らないと、子ども等が怪我をすることがあります。

6 移動・格納

1. 作業機の開閉（オフセット操作）は、必ず左右のキャスタースタンドを取外してから行ってください。
2. トラクターで移動する場合は必ず作業機を中央に入れてから行ってください。
3. 長期間作業しない時はスイッチボックス及びハーネスBS.ASSYをトラクターより外し、保管してください。
4. 長期間作業しない時はシリンダに布等を被せサビないよう注意してください。
(サビはシリンダの油漏れの原因となります)

▲ 警告

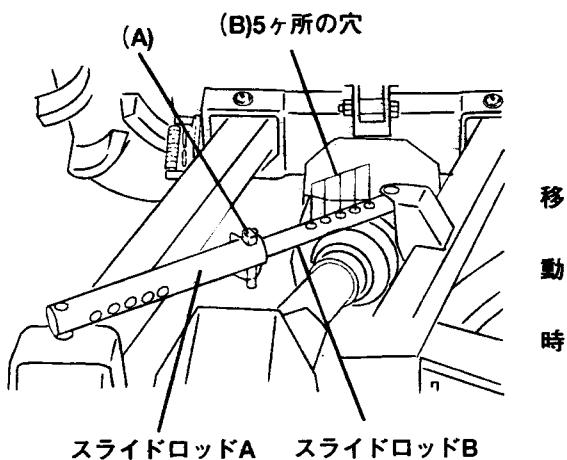
1. ほ場への出入りおよび移動（格納）する時は、必ず作業機を中央に入れてから行ってください。
2. ほ場への出入りは、あぜや段差に対して直角に進んでください。

オフセット操作 (手動式)

(BS850M)

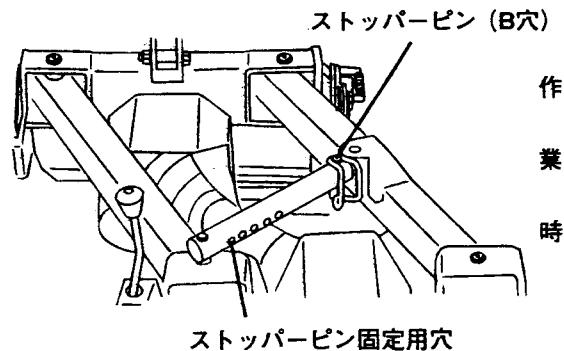
手動タイプのオフセット操作はスライドロッドA・Bの固定位置を変えることにより、移動時の中央セットから、作業時の5段階調整が行えます。

1. 移動時はAの位置にピンを固定してください。



2. 作業時は作業に応じてBの穴(5カ所の内どれか一つ)に固定してください。

ストッパーpin固定穴(5ヶ所)は作業時に戻す場合に同位置に差込んでおけばストッパーpin(B穴)が容易に取付けできます。



(作業に応じてpin固定位置を変えてください)

3. 作業機の開閉(オフセット操作)は、必ず左右のキャスタースタンドを取外してから行ってください。

4. 圃場間を移動する場合は、必ず作業機を中央に入れてから行ってください。

▲ 注意

1. 開閉時、手などがはさまれないよう注意してください。
2. 開閉操作は、周囲に人がいないことを確認してください。作業機で怪我をすることがあります。

作業前の点検

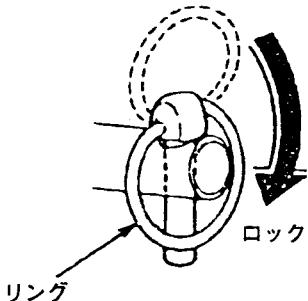
作業機の正常な機能を発揮させるため、又、故障を未然に防ぐには、機械の状態をいつもよく知つておくことが大切です。下記の始業点検は毎日欠かさず行ってください。

▲ 注意

1. 点検は平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりした場所で行ってください。
2. トラクターのエンジンを止め、駐車ブレーキをかけてから行ってください。
3. 作業機は地面におろしてから行ってください。作業機を持ち上げた状態で点検する必要がある場合は、油圧ロックし、落下防止をするとともに、台などを耕うん軸の下に置き、作業機が絶対落下しないようにしてから行ってください。

① 各部ボルト・ナットのゆるみ

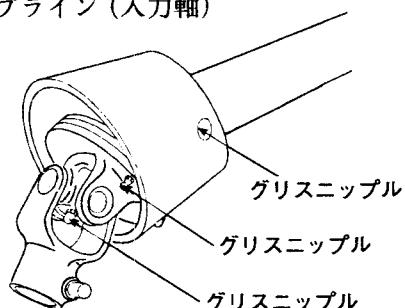
各部のボルト・ナット類に緩みはないか、増し締めしながら点検してください。特に耕うん爪取付けボルトは緩み易いので点検が必要です。尚、新品の場合は使用1時間で点検を行ってください。又、ピン類も全てそろっていることを確認してください。又、リンチピンのリングが確実にロックされていることを確認してください。



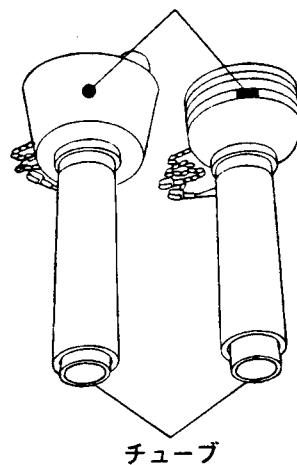
② ジョイントへのグリスアップ

ジョイントの各部にグリスアップしてください。

- ① グリスニップル
- ② チューブ
- ③ スプライン（入力軸）

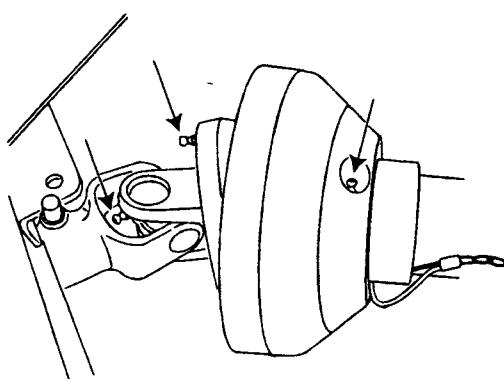
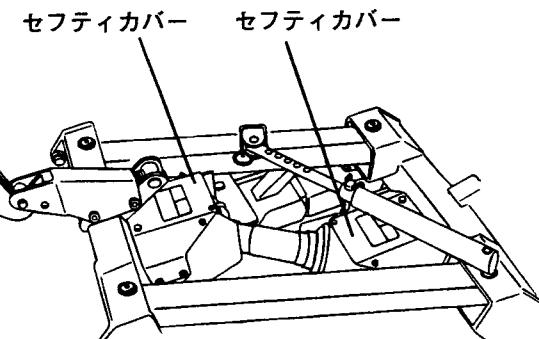


グリスニップル



③ ダブルジョイントへのグリスアップ

- ① 入力軸後部のダブルジョイントの各部にグリスアップしてください。セフティカバーを一旦外してグリスニップル（6コ）にグリスアップして、スプラインシャフト部へはグリスを塗布してください。

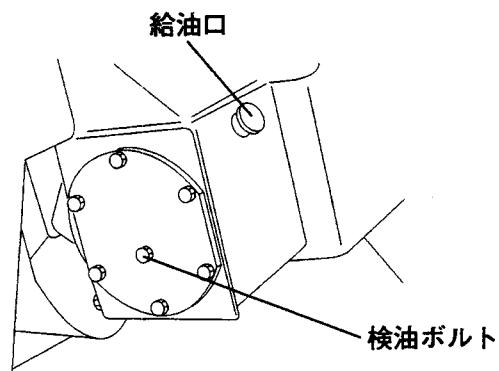


▲ 危険

セフティカバーを外して使用すると、死傷する事がありますので、必ず取付けたままで使用してください。

4 ギヤーケースのオイル量

ギヤーケースの左側面のフタに検油ボルトがありますので、ボルトをゆるめてオイルがあるか確認してください。ボルト面よりオイルが少ない場合は、ボルト面まで補給してください。(ギヤーオイル #90 2.0 ℥)

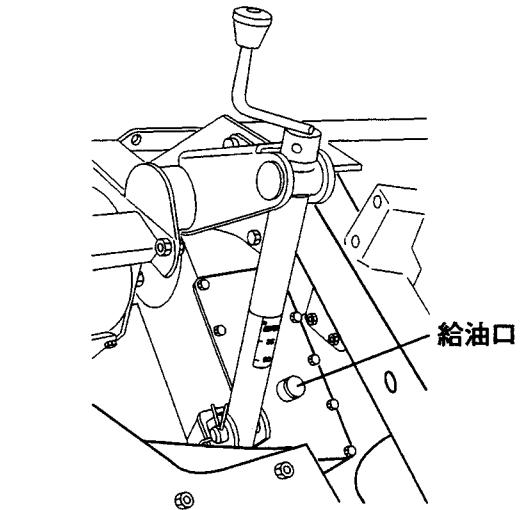
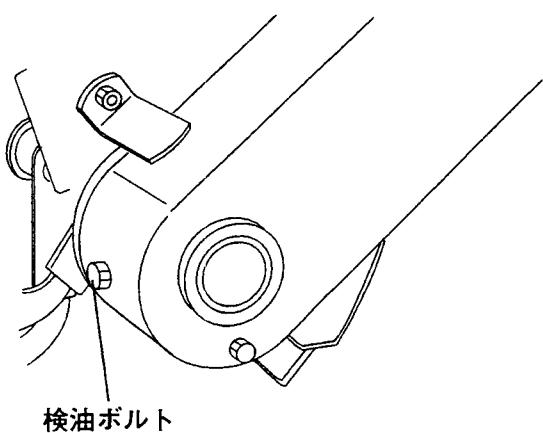


オイル量の点検はアゼローターを水平にして行ってください。

5 チェンケースのオイル量

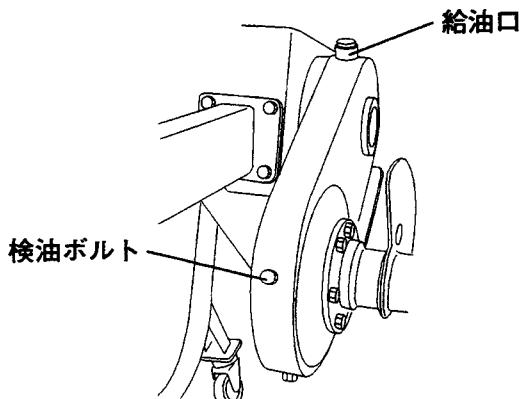
チェンケースの前部に検油ボルトがありますので、ボルトをゆるめてオイルがあるか確認してください。ボルト面よりオイルが少ない場合は、ボルト面まで補給してください。

(1) チェンケース COMP.A
(ギヤーオイル #90 1.5 ℥)



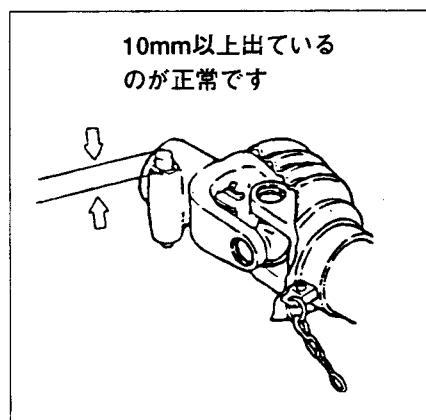
(2) チェンケース COMP.B

(ギヤーオイル #90 1.0 ℥)



6 ジョイントのノックピン

ノックピンが正確に軸溝にはまっているか確認してください。ピンの「頭が10mm以上」出ているか、トラクター側、作業機側のノックピンを確認してください。

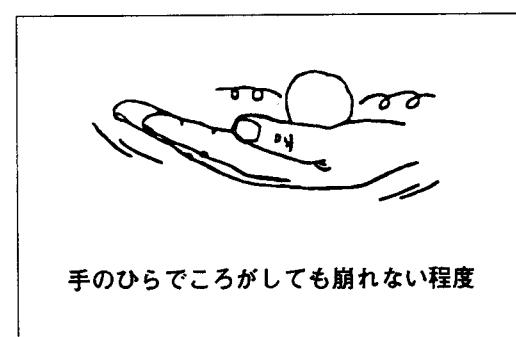
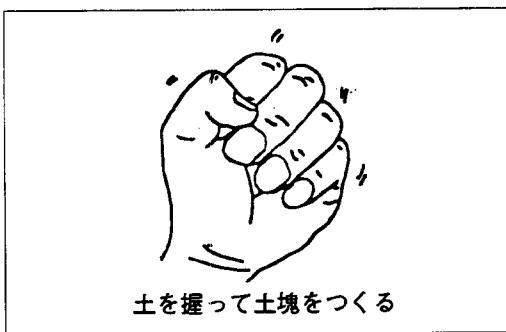


7 空転、暖気運転

作業前には空転させ、各部より異音が発生していないか確認してください。又、暖気運転を5~10分行ってください。

圃場の準備

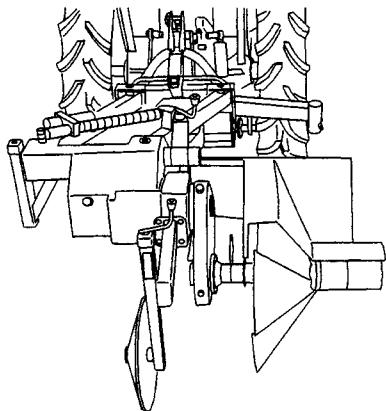
1. 仕上がりの良い畦を築く為、畦草、飛散ワラを取り除いてください。又、石等の障害物がありましたら機械が傷み、故障、事故の原因となりますので、取り除いてください。
2. 圃場は耕うんしないでください。耕うんするとトラクターが沈み直進性が悪くなります。又、土量が減り堅畦が出来にくくなります。(耕うんする場合、トラクター走行幅は残してください)
3. トラクターの車輪後がつか、約5cm程度トラクターのタイヤが沈む程度か、土を丸めて手のひらでころがしても崩れない程度が、良いアゼがつくれます。
4. 雑草やワラ、石などはできるだけ処理してください。
5. 圃場に水が溜まっている時は、水を落として適度の湿りになるまで乾かしてから作業を行ってください。
6. 畦を築いた後で雨が降ると畦が柔らかくなり崩れる恐れがありますので、作業を行う際は天候に十分注意して行ってください。



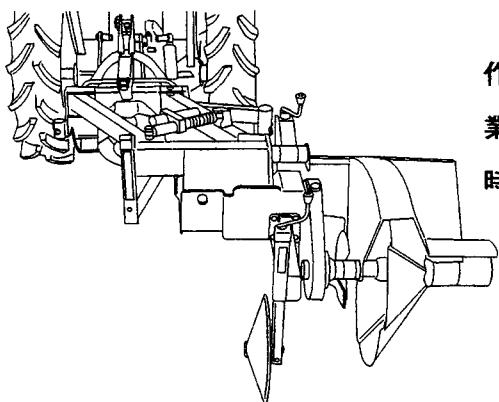
※重粘土質で水分の多い圃場、また極度の砂質ではアゼづくりがむずかしいので注意してください。

移動、圃場への出入り

1. 圃場への出入りおよび移動（格納）する場合は、必ず作業機を中心に入れてから行ってください。（P.14～P.20参照）



移動時



作業時

▲ 注意

1. あぜぬり機を下げて進むと前輪が浮き上がりません。常に前・後輪のバランスを考えながら操作してください。
2. 溝のある農道や両側が傾斜している農道を通るときは、特に路肩に注意してください。
3. 軟弱な路肩、草の生い茂ったところは通らないでください。

▲ 警告

1. 圃部への出入りおよび移動する時は、必ず作業機を中心に入れてから行ってください。
2. 移動の際は、作業機を持ち上げ、油圧ロックをし、作業機の耕うん軸の回転を止めてください。又、チェックチェンも確実に張れているか確認してください。
3. トラックへの積み込み、坂の登りに、トラクターの前輪が浮き上がるとハンドルが利かず危険です。フロントウェイトを着けて作業機を下げて登ってください。
4. 前後、左右に気をくばり、安全を確認しながら走行してください。高速運転、急速発進、急ブレーキ、急旋回はしないでください。
5. 圃場に入るときは、必ず前進で速度を下げる、畦や段差に対して直角に進んでください。畦畔が高い時は、丈夫で滑り止めのあるアユミ板を使用し、傾斜角が14度以下になるようにしてください。
6. 重量バランスの調整を行ってください。

2. 重量バランスの調整

あぜぬり機をトラクターに装着後は、フロントウェイトによる重量バランスの調整が必要です。

次のトラクター形式別ウェイト装着表を参照の上、該当するトラクターについてはトラクター側にフロントウェイトを取付けて重量バランスの調整を行ってください。（ウェイトは別途購入してください）

■ トラクター別ウェイト装着表

トラクター形式	装 着 方 式	
	特3Pの場合	標準3Pの場合
GT26・30	125kg	125kg
GL261・281 GL260・280	28kg	56kg
KL25	28kg	25kg×3
KL27	28kg	25kg×2
KL30・33		28kg

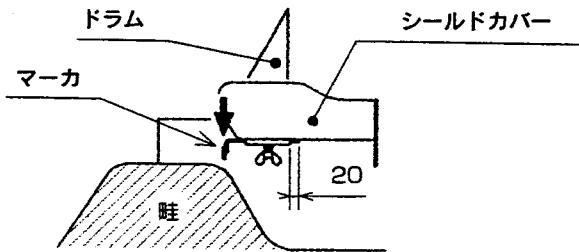
上手な作業の仕方

1 作業前の各部の調整

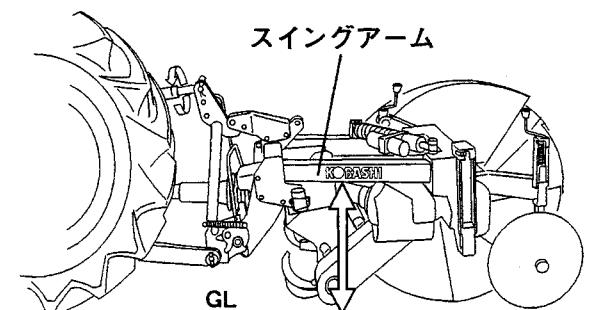
畦の仕上がり状態は、畦の土の状態によって異なりますので、以下の要領で各部の調節を行ってください。

1. アゼローターのセット

- ① トラクターが元畦と平行かつマーカーが元畦のコーナーにくる位置にトラクターを配置します。



- ② PTOを回転させながら、ポジションコントロールレバーで耕うん深さまでゆっくり下げて試運転します (PTO:1速、車速0.5km/h前後、耕深10cm前後)
- ③ スイングアーム及びギヤーケースCOMPが前後左右方向とも水平になっていることを確認します。水平になっていない時は、トップリンクとリフトロッドで調節します。



▲ 警告

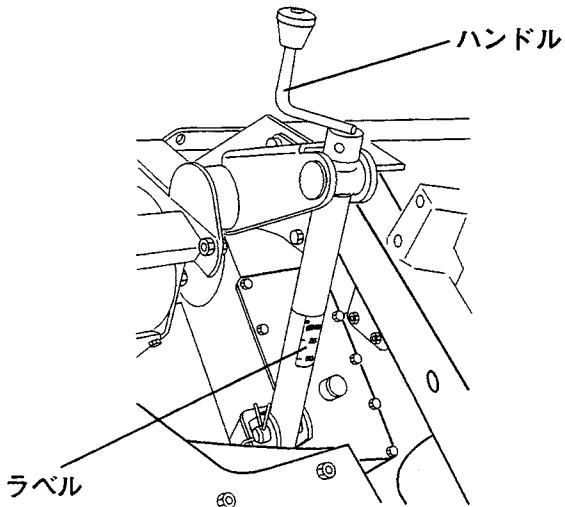
- 運転中は危険ですから、トラクター及び作業機の周囲には、補助作業者や、他の人を絶対に近づけないようにしてください。
- 作業機を調整、整備する場合や、爪軸等への草、ワラのからみ付きを取り除く場合は必ずトラクターの駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し、PTO軸への動力の伝達が切れていることを確認した上で行ってください。
- 傾斜地での急旋回は転倒の危険があります。ゆっくりと注意して行ってください。

取扱い上の注意

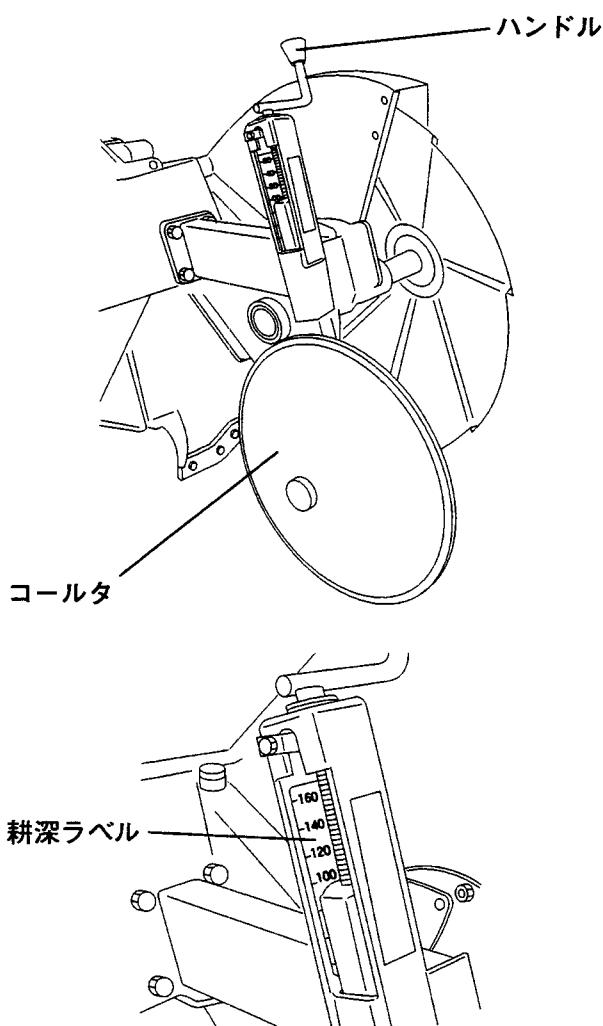
- 逆転での作業はしないでください。
- 土地条件に応じた作業速度、PTO軸回転数、深さを選んでください。尚、石の多い圃場では、作業速度は遅くし、PTO軸回転数も下げて使用してください。

2. 作業深さの調整

- ① 作業深さの調整は、ポジションコントロールレバー及び耕深ゲージハンドル及びコルタで行います。なお、耕深は、ラベルの数字を目安にしてください。



- ② コールタは、アゼローターのふらつきを防ぐためのものです。ハンドルで水田より50ミリ位沈んだ状態に調整してください。

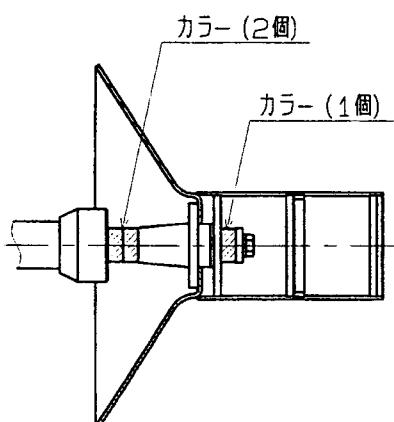


(工場出荷時は100です。)

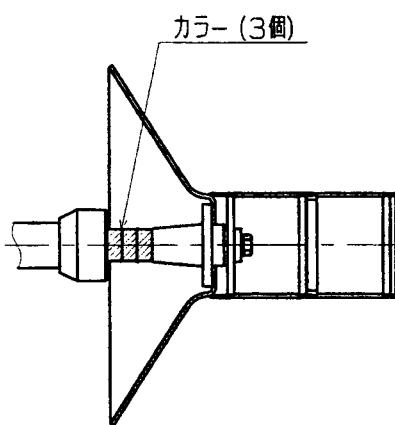
3. ドラム取付幅の調整

- ① 工場出荷時は、下記の位置に取付けています。

<Φ850ドラムの場合>



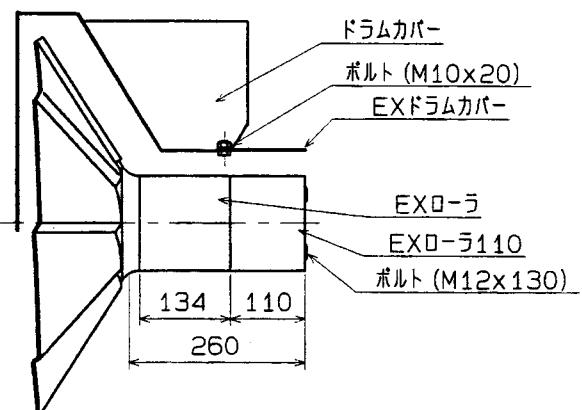
- ② 新畦の厚さを変える場合は、下図の様にカラーを調整します。



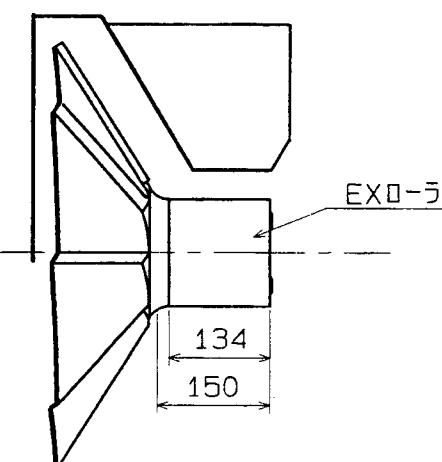
4. EXローラの調節

アゼの幅に合わせてEXローラの幅が調節できます。

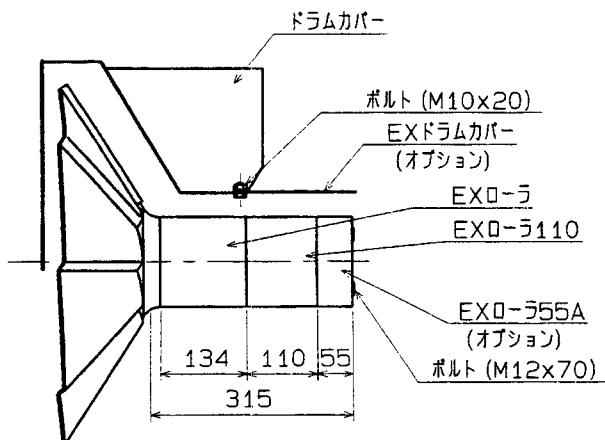
- ① 標準状態は下図の様になっています。



- ② 高畦等でEXローラの幅を狭くしたい場合は、上記EXローラ110（ボルトM12×130）とEXドラムカバー（ボルトM10×15）を外してください。



- ③ EXローラの幅を広くしたい場合は、オプション部(P.68~P.69参照)のEXローラ55AとEXドラムカバー(ボルトM10×15)を取り付けてください。

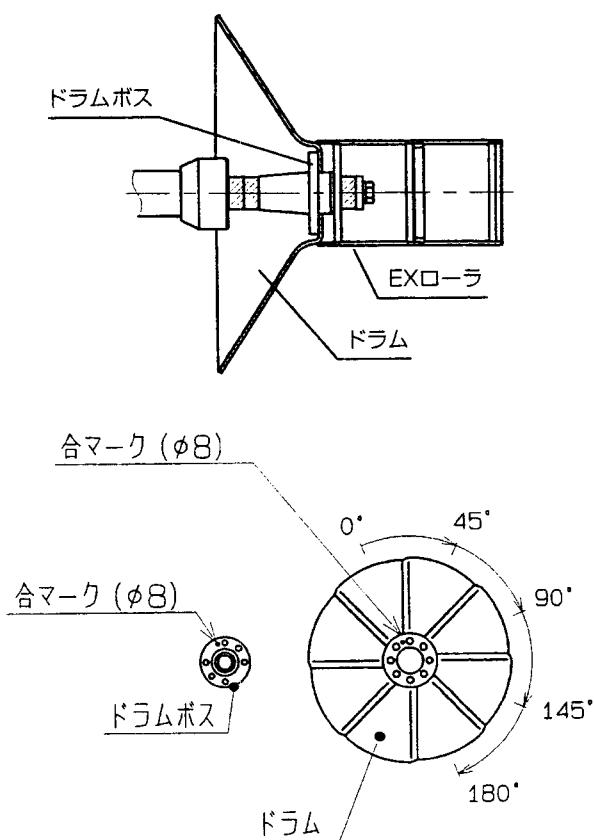


5. ドラム偏心量調節方法

あぜの締め具合を変えたい時は偏心量を調節してください。

偏心量はドラムボスとドラムを取付ける位置によって4段階に変わります。

ドラムの偏心量の調節は、まずEXローラ(2ヶ)とボルト(4ヶ)を取り外して行います。



- ① 偏心量を最小5ミリ(あぜを押す力を最小)にするには、合マーク180°反対にして取付けてください。(工場出荷時)
- ② 偏心量を中間30・20・10ミリ(あぜを押す力を中間)にするには、合マークを45°(30ミリ)、90°(20ミリ)、135°(10ミリ)ずらして取付けてください。

※ 本機は偏心量を最大40ミリにしての作業はできません。

▲ 注意

ドラムには素手や素肌が直接触れないよう、作業は丈夫な手袋を着用して行ってください。

2 作業の仕方

1. あぜを太くする場合

トラクターをあぜから少し離して、アゼローターと元あぜとの間隔を少し広めにすれば、あぜを太くできます。

2. あぜを細くする場合

トラクターをあぜに近寄せて、アゼローターと元あぜとの間隔を少し狭くすれば、あぜを細くできます。

3. 元あぜが低い場合

コールタをできるだけ上げて、耕深を通常より深くして作業してください。

4. 既耕地であぜを作る場合

極端に水分が少ない場所やトラクターがめり込むような場所でなければ、トラクター油圧ポジションで作業高さを調節すれば作業できます。

なお、アゼローターは、未耕地での作業が標準です。先に耕起する場合は、トラクター走行幅は残してください。

作業後の手入れ

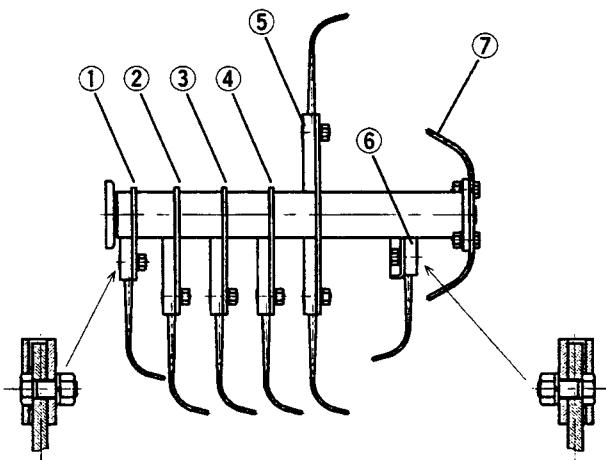
1. 作業後は、その日の内に水洗いし、土などの汚れを落とした後、水分を十分にふきとってください。

2. 各部に注油・給脂（グリスアップ）してください。

耕うん爪の交換

1 爪の種類と本数

規 格	型 式	BS850M(H)
ナタツメ	ZC1127R	6
	ZC1127L	1
アゼキリツメ	AR1265	1
取付ボルト	M12×30 P1.5 8T	9



2 耕うん爪の取付方法

- ①～⑤のホルダにナタツメ(ZC1127R)を取付け、ボルトを六角穴に入れ、ホルダの右側よりバネ座金とナットを入れて締め付けてください。
- ⑥のホルダにナタツメ(ZC1127L)を取付け、ボルトを六角穴に入れ、ホルダの右側よりバネ座金とナットを入れて締め付けてください。
- ⑦のフランジにアゼキリツメ(AR1265)を取付け、爪側よりボルトを入れ、フランジ側にバネ座金とナットを入れて締め付けてください。

- ◆爪の交換は、一度に全部外して交換するのではなく、一本ずつはずして同じ形状刻印の爪を取付けていくと、配列の誤りはなくなります。
- ◆爪が摩耗してきますと、作業状態が悪くなってしまいます。早めにコバシ純正爪と交換してください。

▲ 注意

- 平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりした所で行ってください。
- トラクターの駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止して、油圧ロックを行い、かつ、台などを作業機の下に置き、作業機が落下しないようにしてから行ってください。
- ボルト、ナットを緩めたり、締め付ける場合は、19のメガネレンチが確実に入った状態で作業してください。
- 作業は丈夫な手袋を着用して行ってください。

保守・点検

機械を長持ちさせるためには、普段の保守、点検が大切です。

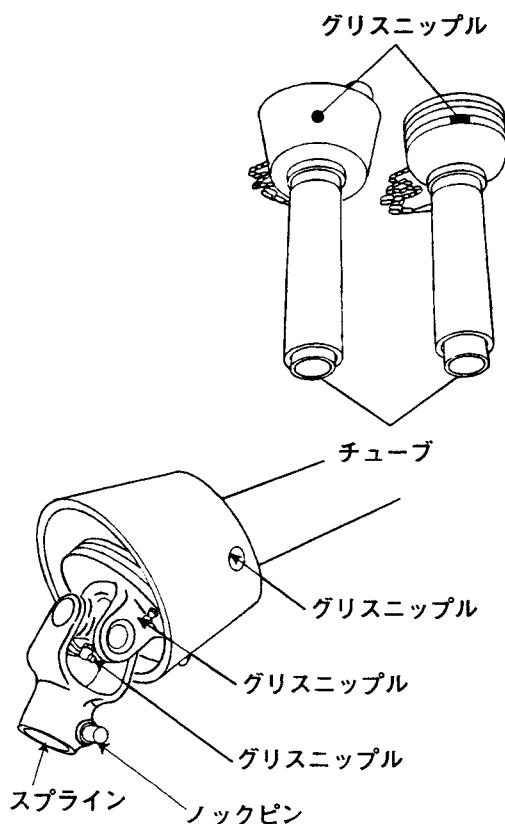
▲ 注意

トラクターの駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止して、油圧ロックを行い、かつ、台などを作業機の下に置き、作業機が落下しないようにしてから行ってください。

1. 作業終了後は、きれいに水洗いを行い、水分を拭き取っておいてください。

2. グリスの給油

① ジョイントは分解して、チューブのかみ合ひ部分にグリスを塗布してください。又、同時にグリスニップルの部分にも適量注入してください。

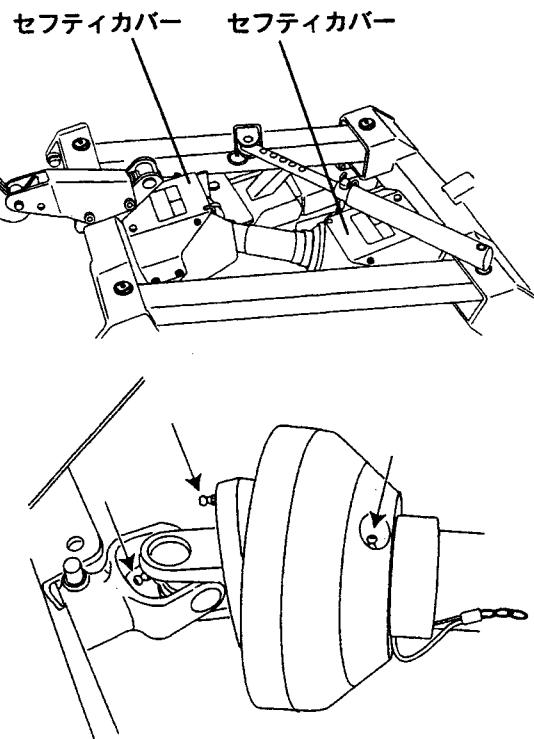


取り扱い上の注意

特に4セットジョイントの場合は、スライド部がサビたり、キズついたりしますと、装着ができなくなりますので、必ず掃除を行いグリスを塗布しゴミがかからないようにしてください。

② ダブルジョイントへのグリスアップ

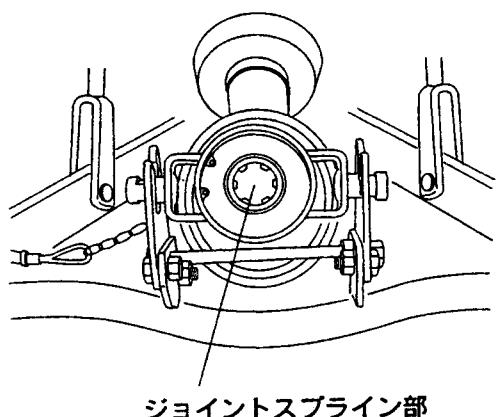
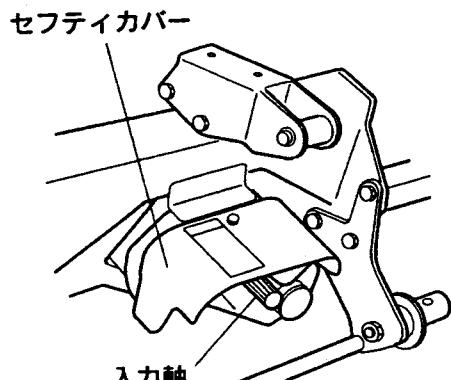
入力軸後部のダブルジョイントの各部にグリスアップしてください。セフティカバーを一旦外してグリスニップル(6コ)にグリスアップして、スライドシャフト部へはグリスを塗布してください。



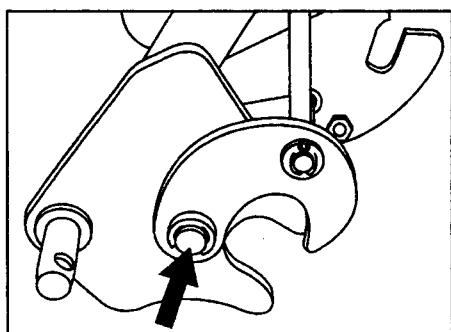
▲ 危険

セフティカバーを取り外して使用すると、死傷する事がありますので、必ず取付けたままで使用してください。

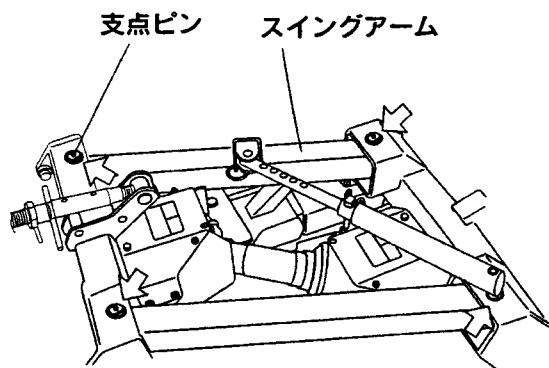
- ③ トラクターのPTO軸と作業機の入力軸へもグリスを塗布し、格納する場合はキャップをかぶせて、サビないようにしてください。



- ④ オートヒッチのフックの支点部分にオイルを適量塗布してください。



- ⑤ スイングアームの支点ピン各部にグリスアップしてください。(4コ)



3. 給油と交換

下記の基準で実施してください。

安全に 点検整備をするときには、

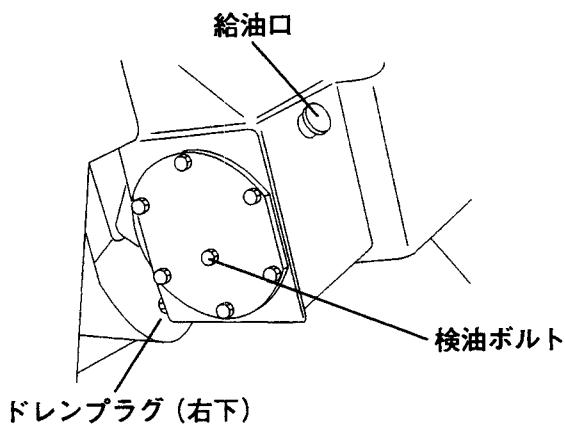
1. トラクターを平坦な広い場所に置き、
2. エンジンを止め、駐車ブレーキをかけ、
3. アゼローターの落下を防止する落下防止調整レバーを回して油圧をロックし、
4. 更に安全性を確認してから行ってください。

点検項目	種類	オイル量	点検・交換時期
ギヤーケースのオイル量点検			毎作業前
チェンケースCOMP.Aのオイル量点検(耕うん軸側)			"
チェンケースCOMP.Bのオイル量点検(ドラム側)			"
ギヤーケースのオイル交換	#90	2.0 ℥	初期 50時間 その後 150時間
チェンケースCOMP.Aのオイル交換	#90	1.5 ℥	"
チェンケースCOMP.Bのオイル交換	#90	1.0 ℥	"

グリースは、日本石油エピノック2番又は同等品(リチウムグリース)を使用してください。

① ギヤーケースの給油と交換

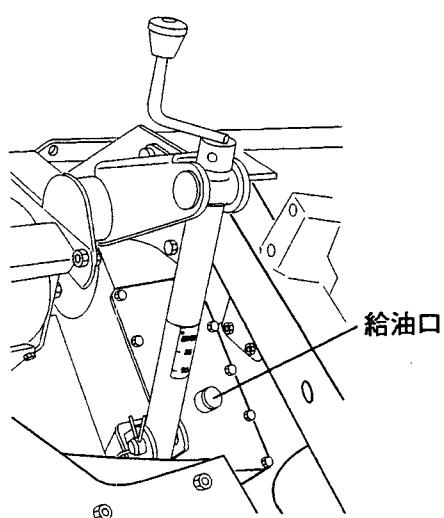
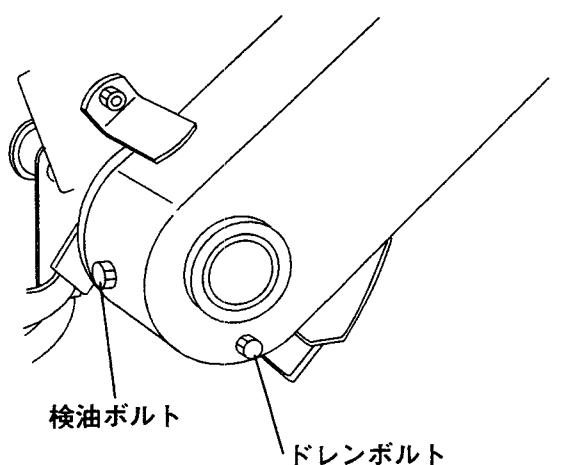
ドレンプラグを外してオイルを出します。ギヤーオイル90番を給油口から規定量まで入れてください。(2.0 ℥)



② チェンケースCOMP.Aの給油と交換

(耕うん軸側)

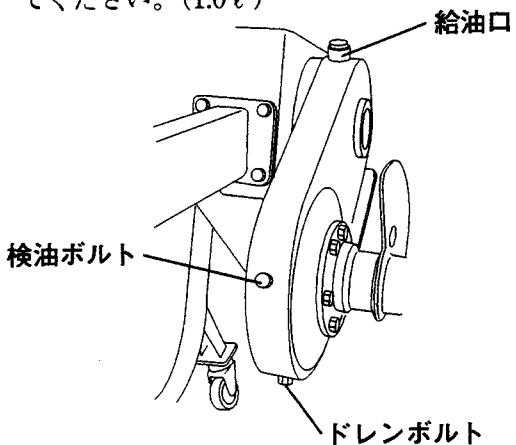
ドレンボルトを外してオイルを出します。ギヤーオイル90番を給油口から規定量まで入れてください。(1.5 ℥)



③ チェンケースCOMP.Bの給油と交換

(ドラム側)

ドレンボルトを外してオイルを出します。ギヤーオイル90番を給油口から規定量まで入れてください。(1.0 ℥)

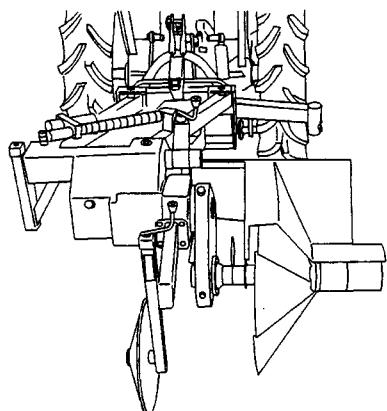


4. オイルシールの組み替え

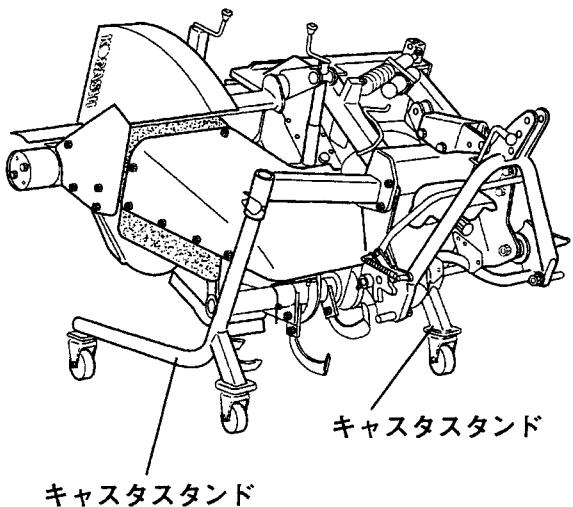
整備などの目的でチェンケース等を分解される場合は、必ず新しいオイルシール。ゴム付座金パッキンと交換してください。オイルもれの原因になります。

保管・格納

1. 格納する時は、必ず作業機を中心に入れて(移動時の位置にして)からキャスタースタンドを取付けてください。

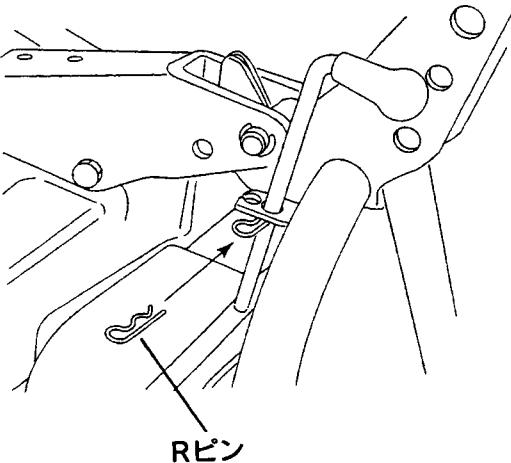


移動時(中央に入れて)



2. 平坦で地盤のしっかりした、屋根のある場所に格納してください。

3. オートヒッチを作業機に取付けて保管する場合は必ず落下防止のRピンを差込んでおいてください。



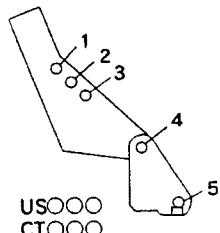
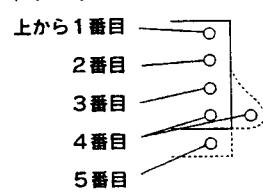
4. 格納後は、みだりに子供などが触れないような処置をしてください。

トラクター別装着表

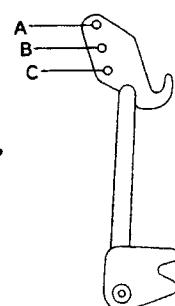
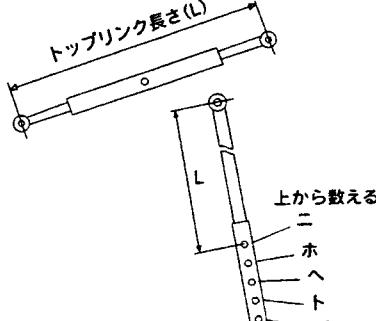
この表はあくまでマッチング表であり、トラクター適応馬力を示すものではありません。トラクター適応馬力の範囲内でご使用ください。

トラクター型式	トラクター部の調整				作業機側		ジョイント 切断寸法 (mm)		備 考
	トップ リンク 取付穴	ロアーリンク 取付穴	リフト ロッド 取付穴	トップ リンク 長さ (mm)	トップ リンク 取付穴	ヒッチ ピン 取付穴	4S	3S	
							TC71M	TC69	
GT26	3	イ	ト	610	A	G	50	50	
GT26J, GT30(J)	3	イ	ト	610	A	G	50	50	
GT-3・5・8	3	イ	ト	600	A	G	70	70	
GL261K・281K GL260K・280K GL-25K	3	イ	ヘ	620	C	G	50	50	
GL261・277・281 GL301E・321E GL260・268・280 GL300ES・320ES GL-L27 GL-25・26・27	3	イ	ヘ	690	A	G			
GL261C・281C GL261Q・277Q GL260Q・268Q GL-L27Q GL-25Q・26Q・27Q	2	イ	ヘ	650	C	G			
GL281J・280J GL301・321・337 GL300・320・338 GL-27J, GL-L33 GL-29・32・33	3	イ	ホ	750	A	G			

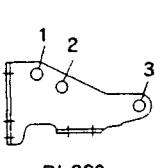
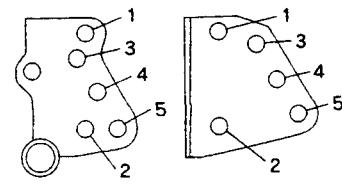
トップリンク取付穴



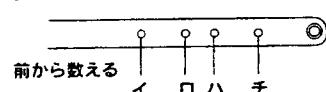
トップリンク・リフトロッド調整



ドラフト仕様 ドラフトなし仕様

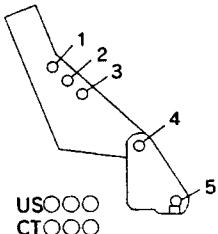
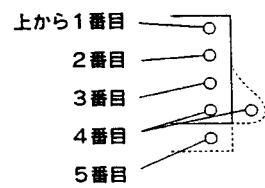


ロアーリンク取付穴

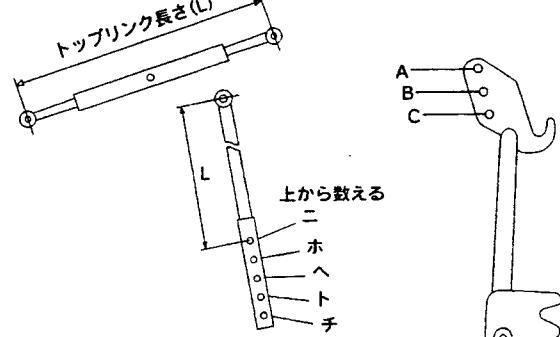


トラクター型式	トラクター部の調整				作業機側		ジョイント 切断寸法 (mm)	備 考
	トップ リンク 取付穴	ロアーリンク 取付穴	リフト ロッド 取付穴	トップ リンク 長さ (mm)	トップ リンク 取付穴	ヒッチ ピン 取付穴		
							4S	
							TC71M	TC69
GL281Q・301Q・321Q GL337Q・338Q GL280Q・300Q・320Q GL281J Q・280 J Q GL301C・321C GL-27JQ・GL-L33Q GL-29Q・32Q・33Q	3	イ	ホ	740	C	G		
GL367・417・467 GL367E・417E・467E L46 GL368・418 GL368ES・418ES	3	イ	ホ	760	A	G		
GL367Q・417Q・467Q GL367EQ・417EQ・467EQ L46Q GL368Q・418Q GL368ESQ・418ESQ	3	イ	ホ	750	C	G		
GL350(Q)・400(Q)・430(Q) GL35(Q)・40(Q)・43(Q)	3	イ	ホ	660	A	G		
GL470(Q) GL46(Q)	3	イ	ホ	670	A	G		
L1-255(Q)	3	イ	ヘ	680	A	G		
L1-275J(Q)	3	イ	ホ	750	A	G		
L1-275(Q) L1-265,L1-26	3	イ	ヘ	740	A	G		
L1-295(Q)・315(Q)・325(Q) L1-285,L1-28	3	イ	ニ	750	A	G		
L1-325(Q) ドラフト	4	イ	ニ	710	A	G		
L1-345(Q)・385(Q)・435(Q) L1-33・38・43	3	イ	ホ	660	A	G		

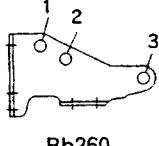
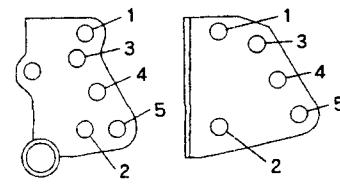
トップリンク取付穴



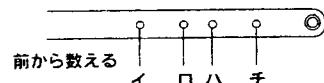
トップリンク・リフトロッド調整



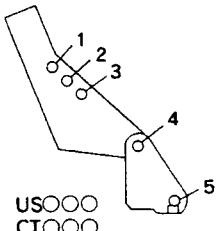
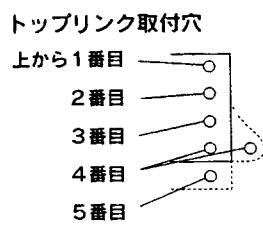
ドラフト仕様　　ドラフトなし仕様



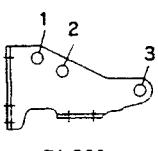
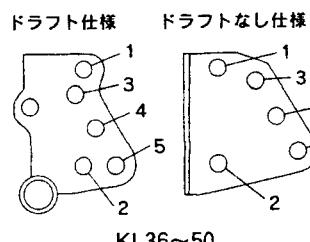
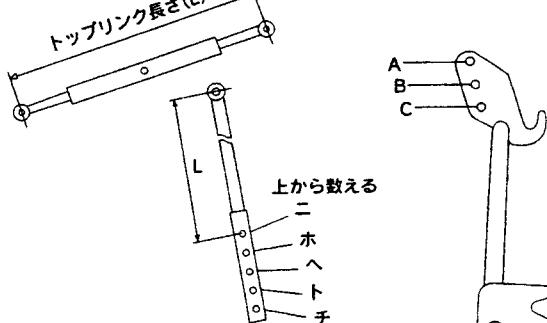
ロアーリンク取付穴



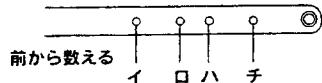
トラクター型式	トラクター部の調整				作業機側		ジョイント 切断寸法 (mm)	備 考
	トップ リンク 取付穴	ロアーリンク 取付穴	リフト ロッド 取付穴	トップ リンク 長さ (mm)	トップ リンク 取付穴	ヒッチ ピン 取付穴		
							4S	3S
							TC71M	TC69
L1-455(Q) L1-45	3	イ	ヘ	670	A	G		
MK60SK MK40K・50K・60K	2	ロ	ホ $\ell = 725$	620	A	G	TC84M に交換	TC80 に交換
GM49	5	イ	ニ	620	A	G		
KL36(Q)・43(Q)	5	イ	ヘ	710	A	G		TC74 に交換
KL38(Q)・41(Q) KL41-PC	5	イ	ヘ	680	A	G		
KL46(Q)・50(Q) KL50-PC	5	イ	ホ	710	A	G		
KL25K・30K	4	イ	ヘ	660	A	G		
KL25KS・30KS	4	イ	ホ	660	A	G		
KL25	4	イ	ヘ	610	A	G		
KL27, KL25NC, KL25J KL25HT, KL28rops KL33-T(W)	4	イ	ヘ	630	A	G		
KL30(Q)・33(Q)・31(Q)・34(Q) KL28Q, KL27J	4	イ	ヘ	690	A	G		
KL25Q	1	ロ	ヘ	620	A	G		
KL25-PC, KL27Q KL25NCQ・25HTQ・25JQ	1	イ	ヘ	650	A	G		
KL33-PC	2	イ	ヘ	710	A	G		
Bb260	2	ロ	ト	550	A	G		
KT27	3	イ	ト	610	A	G		
KT27J KT30(J)	3	イ	ト	610	A	G	50	50



トップリンク・リフトロッド調整

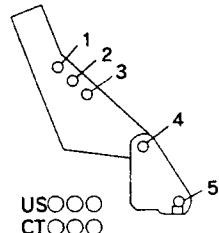
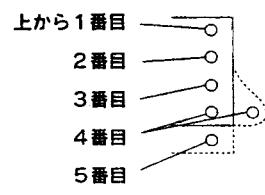


ロアーリンク取付穴

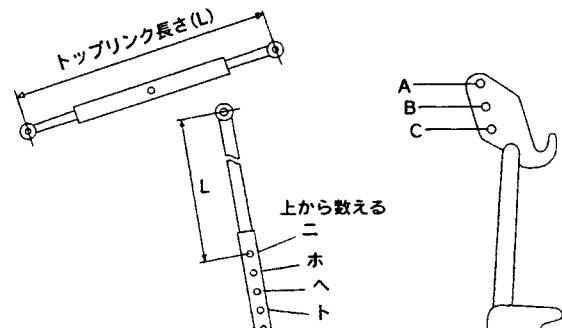


トラクター型式	トラクター部の調整				作業機側		ジョイント 切断寸法 (mm)	備 考
	トップ リンク 取付穴	ロアーリンク 取付穴	リフト ロッド 取付穴	トップ リンク 長さ (mm)	トップ リンク 取付穴	ヒッチ ピン 取付穴		
US535・540・545・550	5	イ	ヘ	530	A	G	30	30
US535A・540A US545A・550A JD1320・1420	5	イ	ヘ	530	A	G	30	30 青森仕様 ジョンデア仕様
AF250(J)(R)	3	イ	ホ	600	C	G		
AF250(J)(R)Q	1	イ	ホ	570	C	G		ジョイント異音 時PTO切
AF270(J)(R)(Q) 290(J)(R)(Q) AF26(Q)・28(J)(Q)	3	イ	ホ	700	A	G		
AF310(J)(R)(Q) 330(J)(R)(Q) AF350(J)(R)(Q) AF400(R)(Q)	4	イ	ホ	690	A	G		
AF30(Q)・33(Q)	3	イ	ホ	730	A	G	TC84M に交換	TC80 に交換
AF33J(Q)・35J(Q)	3	イ	ホ	730	A	G		
AF30(J)(Q)R・33(J)(Q)R AF35(J)(Q)R	4	イ	ホ	710	A	G		
AF250(Q)	3	イ	ヘ	640	A	G		
RS27(Q) RS30(Q)・33(Q) RS270(Q) RS300(Q)・330(Q)	2	イ	ホ	570	A	G		

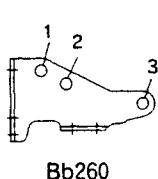
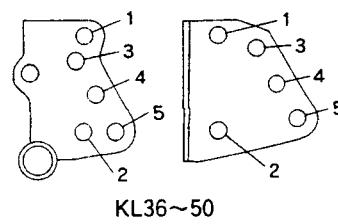
トップリンク取付穴



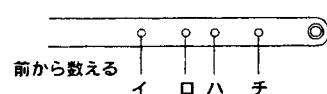
トップリンク・リフトロッド調整



ドラフト仕様 ドラフトなし仕様

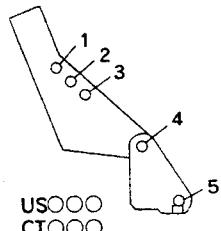
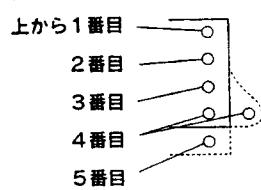


ロアーリンク取付穴

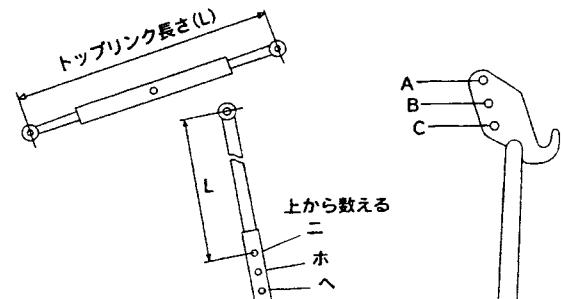


トラクター型式	トラクター部の調整				作業機側		ジョイント 切断寸法(mm)		備 考
	トップ リンク 取付穴	ロアーリンク 取付穴	リフトロッド 取付穴	トップ リンク 長さ(mm)	トップ リンク 取付穴	ヒッチ ピン 取付穴	4S	3S	
							TC71M	TC69	
F(X)255	3	イ	ホ	640	C	G			
FX265M	3	ロ	ヘ	680	A	G			
F(X)265, FX30S	3	ロ	ホ	680	A	G			
FX285, FX26	3	イ	ホ	570	A	G			
FX305・335・435 FX28・32・42	3	イ	ホ	560	A	G			
AF645・650	4	イ	ヘ	540	A	G	30	30	トップリンク プラケットなし
F395・475	4	イ	ヘ	630	A	G			
F395Q・475Q F37・46	4	イ	ヘ	630	A	G			
US31(Q)・35(Q)	3	イ	ホ	570	A	G	70	70	
US39(Q)・45(Q)	3	ロ	ニ	600	B	G	50	50	
CT450・550・600	5	ロ	ヘ	560	A	G			トップリンク プラケット付
CT45・55	4	イ	ホ	550	A	G			
US32(R)(Q)・36(R)(Q)	3	ロ	ホ	600	A	G	50	50	
US40(R)(Q)・46(R)(Q) US50(R)	3	ロ	ホ	600	B	G	50	50	
AF324M・328M・330M AF270M・310M AF26ML・30ML	3	イ	ホ	600	C	G			高床時の装着
AF26MH	3	イ	ホ	700	A	G			
FV250(Q)・270(Q)	2	イ	ホ	550	A	G	50	50	

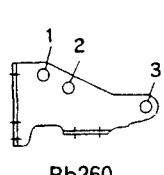
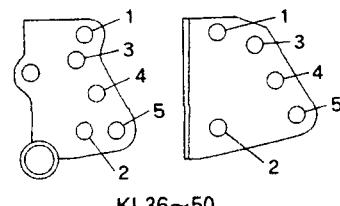
トップリンク取付穴



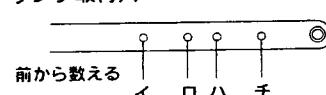
トップリンク・リフトロッド調整

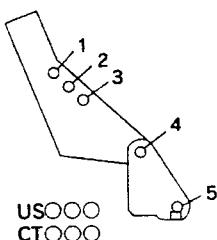
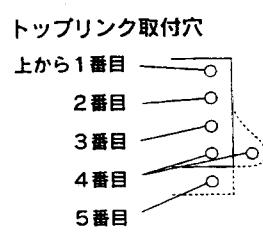


ドラフト仕様　ドラフトなし仕様

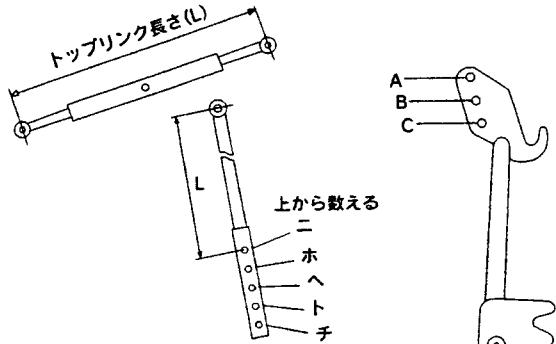


ロアーリンク取付穴

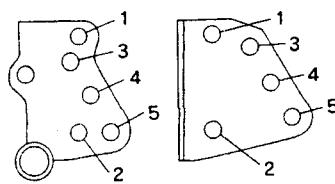




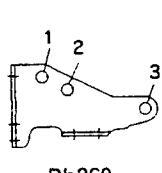
トップリンク・リフトロッド調整



ドラフト仕様 ドラフトなし仕様

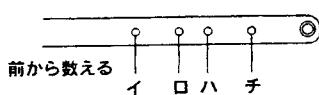


KL36~50



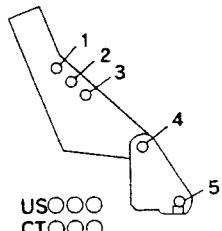
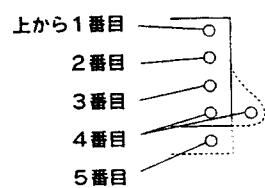
Bb260

口アーリンク取付穴

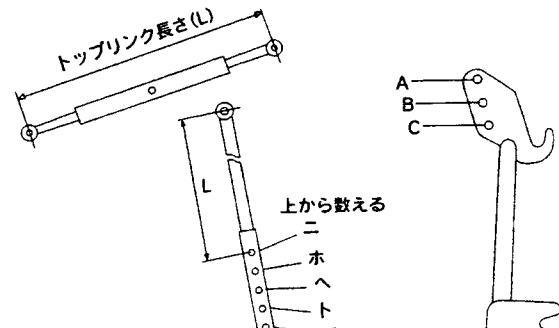


トラクター型式	トラクター部の調整				作業機側		ジョイント 切断寸法 (mm)	備 考
	トップ リンク 取付穴	ロアーリンク 取付穴	リフト ロッド 取付穴	トップ リンク 長さ (mm)	トップ リンク 取付穴	ヒッチ ピン 取付穴		
					4S	3S		
					TC71M	TC69		
TK46-FC	3	イ	ホ	550	A	G		
TH26 THS26	1	イ	ヘ	470	B	G	90	90
TF26(N)(Q)	3	イ	ホ $\ell = 450$	580	A	G	70	70
TG253-A・273-A TG25-A	2	ロ	ホ	540	A	G		
TU257	2	イ	ニ	610	A	G	70	70
TK25・29・33	2	イ	ホ	540	A	G	60	60
TG25(Q) TG253,TG273(Q) TGS25(Q)	3	イ	ニ	600	A	G		
TG253Q TGS25Q	3	イ	ホ	600	A	G		
TG27(Q)・29(Q)・31(Q)・ 33(Q) TG27L・31L、TG29H(Q) TG293(Q)・313(Q)・333(Q) TGS29(Q)・33(Q)	3	イ	ニ	600	A	G		
TG37(Q)・43(Q)・48(Q) TG413(Q)・463(Q)・503(Q) TGS37(Q)・41(Q)・46(Q)	3	イ	ホ $\ell = 490$	600 (580)	A	G		トップリンク長 の580はドラフ ト仕様を示す
TA267(Q)・287(Q)・317(Q) TA275(Q) TA262(Q)・312(Q)・263(Q) TA250	2	イ	ホ	560	A	G	50	50

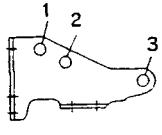
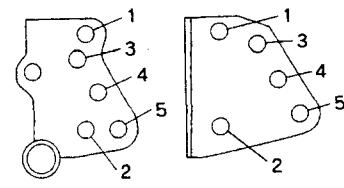
トップリンク取付穴



トップリンク・リフトロッド調整



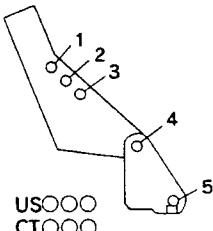
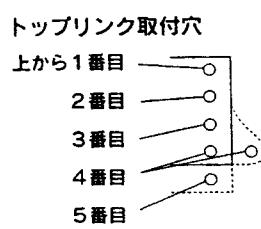
ドラフト仕様 ドラフトなし仕様



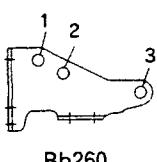
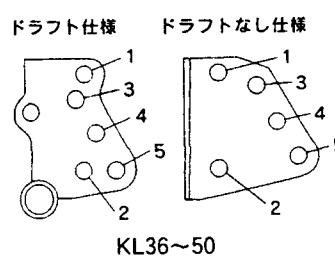
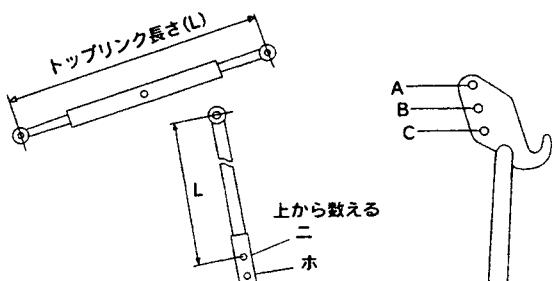
ロアーリンク取付穴



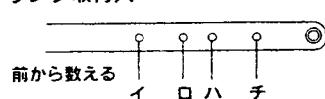
トラクター型式	トラクター部の調整				作業機側		ジョイント 切断寸法 (mm)	備 考
	トップ リンク 取付穴	ロアーリンク 取付穴	リフト ロッド 取付穴	トップ リンク 長さ (mm)	トップ リンク 取付穴	ヒッチ ピン 取付穴		
							4S	
							TC71M	
TA337(Q)・357(Q)・417(Q) TA437(Q) TA295(Q)・325(Q)・345(Q) TA375(Q)・435(Q) TA290・320・340・370 TG353・373 TK37・41・46, TGS37	3	イ	ホ	550 (540)	A	G		トップリンク長 の540はドラフ ト仕様を示す
TA467(Q) TA415(Q)・455(Q)・505(Q) TA410・450	3	イ	ニ $\ell=510$	590 (570)	A	G		トップリンク長 の570はドラフ ト仕様を示す
TS35F	4	イ	ニ	660	A	G		
TR45(メカ)	4	イ	ニ	630	A	G		
TR45(マイコン)	2	イ	ニ	680	A	G		ジョイント異音 時PTO切
TGS46C	3	イ	ニ $\ell=490$	580	A	G		



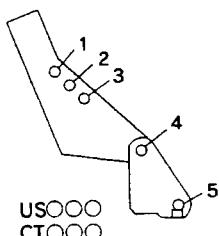
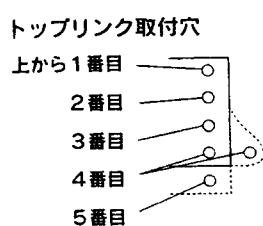
トップリンク・リフトロッド調整



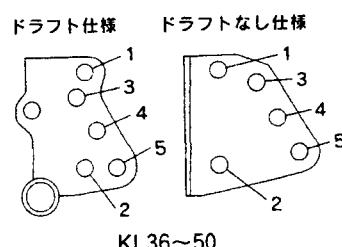
ロアーリンク取付穴



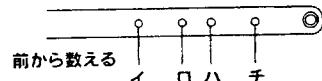
トラクター型式	トラクター部の調整				作業機側		ジョイント 切断寸法 (mm)	備 考
	トップ リンク 取付穴	ロアーリンク 取付穴	リフト ロッド 取付穴	トップ リンク 長さ (mm)	トップ リンク 取付穴	ヒッチ ピン 取付穴		
MKM45・55	2	イ	ニ	620	A	G	TC84M に交換	TC74又 はTC80 に交換
MT266 MT286・306・336 MT265	3	イ	ホ $\ell = 491$	630	A	G		
MT266Q MT286Q・306Q・336Q MT265Q	1	イ	ホ $\ell = 491$	590	A	G		
MT265L MT285・305	3	イ	ホ $\ell = 491$	670	A	G		
MT265LQ MT285Q・305Q	1	イ	ホ $\ell = 491$	640	A	G		
MT335(Q)・365(Q) MT337(Q)・367(Q)	4	口	二 $\ell = 477$	550	A	G		
MT338・368	4	口	ニ	540	A	G		
MT408・468	4	イ	ニ	540	A	G		
MT26改	3	イ	ホ $\ell = 480$	610	A	G		
MT501	4	イ	ヘ	540	A	G	30	30
MT26 MT25	3	イ	ホ $\ell = 480$	630	A	G		
MT251・271 MT291・311・331	3	イ	ホ	690	A	G		TC74に 交換
MTX28	3	イ	ホ $\ell = 480$	630	A	G		



トップリンク・リフトロッド調整



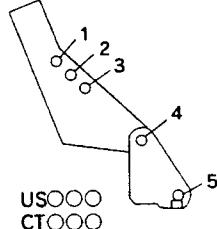
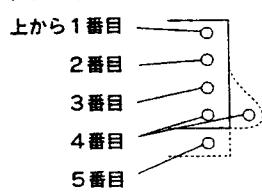
ロアーリンク取付穴



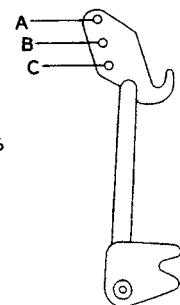
前から数える
イ 口 ハ チ

トラクター型式	トラクター部の調整				作業機側		ジョイント 切断寸法 (mm)		備 考
	トップ リンク 取付穴	ロアーリンク 取付穴	リフト ロッド 取付穴	トップ リンク 長さ (mm)	トップ リンク 取付穴	ヒッチ ピン 取付穴	4S	3S	
							TC71M	TC69	
MT27・30	4	イ	ホ $\ell = 480$	560	A	G			
MT33	4	ロ	二 $\ell = 477$	550	A	G			
MT400(Q)・460(Q)	3	ロ	ホ	600	B	G	50	50	
MTR250・270・300 MTM250・270・300	3	イ	ホ	640	A	G			
GS25	3	イ	ホ	590	A	G	50	50	
D258(Q)・278(Q)	2	イ	ホ	550	A	G	50	50	
D288(Q)・318(Q)	2	イ	ホ	620	A	G			
D338(Q)・438(Q) S440A新	2	イ	ヘ	620	A	G			
S325A	2	イ	ホ	560	A	G	50	50	
S330A D265(Q)・275(Q) D295(Q) D26・28	2	イ	ホ	610	A	G			
S440A D335(Q)・435(Q) D32・34・43	2	イ	ホ	620	A	G			

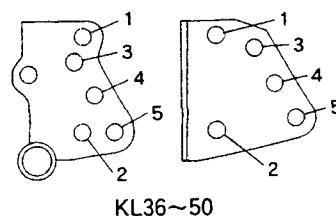
トップリンク取付穴



トップリンク・リフトロッド調整



ドラフト仕様 ドラフトなし仕様

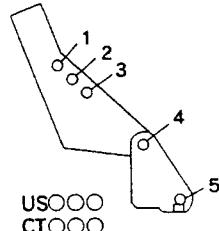
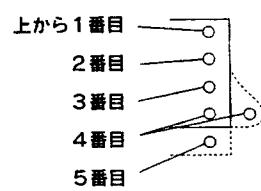


ロアーリンク取付穴

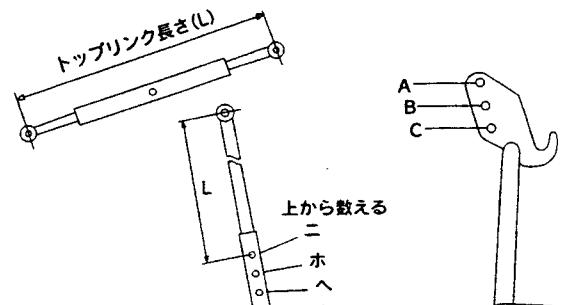


トラクター型式	トラクター部の調整				作業機側		ジョイント 切断寸法 (mm)	備 考
	トップ リンク 取付穴	ロアーリンク 取付穴	リフト ロッド 取付穴	トップ リンク 長さ (mm)	トップ リンク 取付穴	ヒッチ ピン 取付穴		
							4S	
							TC71M	
N279	3	イ	ホ	510	C	G		
N329・359	3	イ	ホ	500	C	G		
NZ265	3	イ	ト	610	A	G	50	50
NZ265B NZ305(B)	3	イ	ト	610	A	G	50	50
NZ260	3	イ	ト	600	A	G	70	70
NX261・277・281 NX25・27 NX301Z・321Z	3	イ	ヘ	690	A	G		
NX261Q・277Q・260Q NZ25Q・27Q	2	イ	ヘ	650	C	G		
NX301・321・337 NX300・320・338 NX29・32	3	イ	ホ	750	A	G		
NX281Q・301Q・321Q NX337Q・338Q NX280Q・300Q・320Q NX29Q・32Q	3	イ	ホ	740	C	G		
NX367(Z)・417(Z)・467(Z) NX368(Z)・418	3	イ	ホ	760	A	G		
NX367(Z)Q・417(Z)Q NX467(Z)Q NX368Q・418Q	3	イ	ホ	750	C	G		

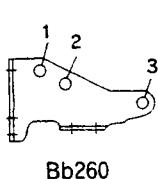
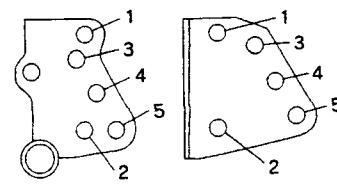
トップリンク取付穴



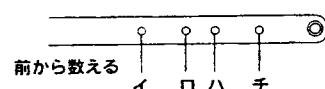
トップリンク・リフトロッド調整

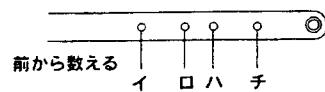
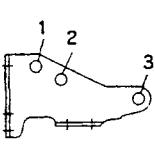
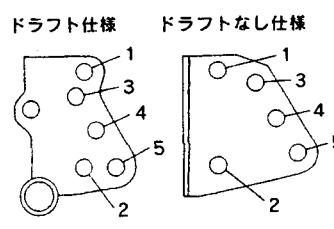
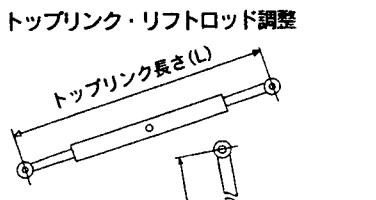
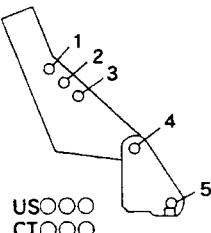
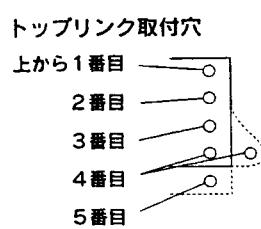


ドラフト仕様　ドラフトなし仕様

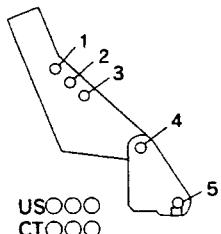
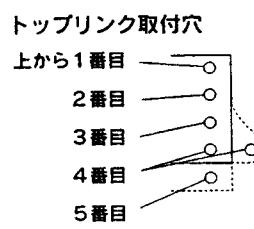


ロアーリンク取付穴

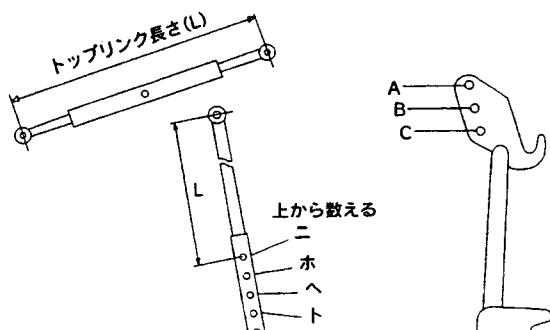




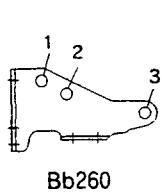
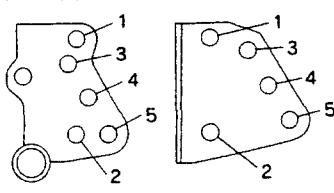
トラクター型式	トラクター部の調整				作業機側		ジョイント 切断寸法 (mm)		備 考
	トップ リンク 取付穴	ロアーリンク 取付穴	リフト ロッド 取付穴	トップ リンク 長さ (mm)	トップ リンク 取付穴	ヒッチ ピン 取付穴	4S	3S	
							TC71M	TC69	
TX252	4	イ	ヘ	610	A	G			
TX272	4	イ	ヘ	630	A	G			
TX302・332	4	イ	ヘ	690	A	G			
TX252Q	1	ロ	ヘ	620	A	G			
MK-30	2	イ	ホ $\ell = 725$	670	A	G	TC84M に交換	TC80M に交換	
MK-40	2	イ	ホ $\ell = 725$	650	A	G	TC84M に交換	TC80M に交換	
MK-50	2	イ	ホ $\ell = 725$	670	A	G	TC84M に交換	TC80M に交換	
MK-30(94)	2	イ	ホ $\ell = 675$	670	A	G	TC84M に交換	TC80M に交換	
MK-40(94)	2	ロ	ホ $\ell = 725$	650	A	G	TC84M に交換	TC80M に交換	
MK-50(94)	2	ロ	ホ $\ell = 725$	670	A	G	TC84M に交換	TC80M に交換	
MK-40・50・60(96) MK40S MK-60S	2	ロ	ホ $\ell = 725$	620	A	G	TC84M に交換	TC80M に交換	



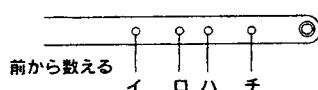
トップリンク・リフトロッド調整



ドラフト仕様 ドラフトなし仕様



ロアーリンク取付穴



点検整備一覧表

時 間	項 目	参照ページ
新品 使用始め	チェンケース(ギヤーケース)のオイル量点検	36
新品 1時間使用後	全部のボルト、ナットを増し締め	35
新品50時間使用後	①チェンケース(ギヤーケース)のオイル交換	45
毎日の作業 前	①チェンケース(ギヤーケース)のオイル量、オイル漏れの点検	36
	②耕うん爪の取付ボルトの増し締め	35
	③ジョイントのグリスニップルへのグリス注入	35
	④地面から上げて空転での、異音、異常振動等、異常の点検	36
毎日の作業 後	①洗浄後、水分拭き取り	42
	②ボルト、ナット、ピン類の緩み、脱落の点検	35
	③耕うん爪、爪ホルダ等の摩耗、折損の点検	42
	④入力軸へグリス塗布	44
	⑤ジョイントスライド部へグリス塗布	44
	⑥ジョイント、ノックピンへ注油	43
	⑦可動部へ注油	44
150時間毎 又は シーズン 終了後	①ギヤーケースのオイルシールの異常点検	45
	②チェンケース(ギヤーケース)のオイル交換とオイルシール、パッキンの異常点検	45
	③ジョイントのシャフトへのグリス塗布	43
	④安全ラベルの剥がれの点検	6~8
	⑤無塗装部へのサビ止め	
	⑥消耗部品の早期交換	62

異常診断一覧表

使用中あるいは使用後の点検時に下表の異常が発生した場合、そのままにしておきますと故障、事故の原因となります。

再使用せず、直ちに対策を行ってください。

本体各部	症 状	原 因	対 策
ギヤー ケース	異 音 の 発 生	ペアリングの損傷	ペアリング交換
		ギヤーの損傷	ギヤー交換
		ペベルギヤーのかみ合い不良	シムで調節
	オ イ ル 漏 れ	入力軸：軸受け部オイルシールの損傷	オイルシール交換
		カバー取付ボルトのゆるみ	ボルト増し締め
	異常な高温の発生	オイル量の不足	オイル補給
		ペアリングの損傷	ペアリング交換
チェン ケース	異 音 の 発 生	チェンテンショナの破損	テンショナ交換
		スプロケットの損傷	スプロケット交換
		ペアリングの損傷	ペアリング交換
	オ イ ル 漏 れ	オイルシール、Oリングの劣化、損傷	オイルシール、Oリングの交換
		カバー取付ボルトのゆるみ	ボルト増し締め
	異常な高温の発生	オイル量の不足	オイル補給
		ペアリングの損傷	ペアリング交換
耕うん軸	異 音 の 発 生	軸受部のペアリングの損傷	ペアリング交換
		耕うん爪取付ボルトのゆるみ	ボルト締め付け
		耕うん爪の変形によるカバーとの干渉	耕うん爪交換
	振 動 の 発 生	耕うん爪軸の曲がり	耕うん爪軸交換
		耕うん爪、爪軸へのワラ、草等のかかり	ワラ、草等の除去
		耕うん爪の配列不良	爪配列の点検
	軸回転不良	チェンの切損	チェン交換
		駆動軸の切損	駆動軸交換
		ギヤーの破損	ギヤー交換
	土のたまりすぎ	耕深が深い	耕深を浅く

本体各部	症 状	原 因	対 策
ジョイント	異 音 の 発 生	グリス切れ	グリスアップ
		ジョイント折れ角が不適格	マッチング姿勢の矯正
		ロータリーの上げすぎ	リフト量の規制
	た わ み 発 生	シャフトのかみ合い幅不足	長いものと交換
	スプライン部のガタ	ノックピンとヨークの摩耗	交換

消耗部品

1. ドラム
2. ナタ爪
3. アゼキリ爪

用語解説

アタッチメント

作業機に後付けする部品

オートヒッチ

トラクターに乗ったままワンタッチで作業機を装着できるヒッチ

クリープ

超低速の作業速度

耕 深

耕耘する深さ

3点リンク

トラクターに作業機を装着するための3点で支持を行うリンク

チェックチェン

トラクターに対し作業機が左右に振れる量を規制するチェン

トップリンク

作業機を装着する3点のリンクのうち、作業機の上部を吊り下げているリンク

揚 力

トラクターが作業機を上昇させるための力

ジョイント

トラクターの動力を作業機へ伝達するための軸

リフトロッド

トラクターが作業機を上げるためロアーリングと連結しているアーム

リリーフ弁

油圧装置に規定以上の油の圧力がかかり油圧装置が破損することを防止する弁

ロアーリング

作業機を装着する3点リンクのうち、作業機の下部を吊り下げているリンクで左右一本ずつある

ポジションコントロールレバー

作業機を上げ下げするために使用するレバー

—

主要諸元

型 式		BS850M T-4S	BS850M T-3S	BS850M T-0S	BS850M T-1S
機 体 寸 法	全 長 (mm)	2 0 1 0	2 0 1 0	1 8 4 0	2 0 1 0
	全 幅 (mm)	1 4 2 0	1 4 2 0	1 4 2 0	1 4 2 0
	全 高 (mm)	1 2 9 0	1 2 9 0	1 2 9 0	1 2 9 0
重 量 (kg)		3 7 3	3 7 3	3 3 8	3 5 8
適応トラクター (PS)		2 5 ~ 5 0			
装着装置の種類	日農工標準オートヒッチ				標準3P直装
	3 P 0・I形 (標準オートヒッチ付)	3 P 0・I形 (標準オートヒッチ付)	3 P 0・I形	3 P 0・I形	3 P 0・I形
標準作業速度 (km/h)		0.6 ~ 1.2			
作 業 能 率 (分/100m)		5 ~ 1 0			
入力軸回転速度 (rpm)		5 4 0			
掘 削 部	爪 本 数	8			
	回 転 径 (mm)	5 6 0			
整 形 部	ドラム形状	8面段付ドラム			
	ド ラ ム 径 (mm)	8 5 0			
耕深調節機構		ゲージ輪			

主 要 諸 元

型 式		BS850M T-4L	BS850M T-3L	BS850M T-0L
機 体 寸 法	全 長 (mm)	2 2 5 0	2 2 5 0	1 8 6 0
	全 幅 (mm)	1 4 2 0	1 4 2 0	1 4 2 0
	全 高 (mm)	1 2 9 0	1 2 9 0	1 2 9 0
重 量 (kg)		4 0 7	3 9 7	3 4 2
適応トラクター (PS)		2 5 ~ 5 0		
装着装置の種類		日農工標準オートヒッチ		
		3 P I・II形 (標準オートヒッチ付)	3 P I・II形 (標準オートヒッチ付)	3 P I・II形
標準作業速度 (km/h)		0 . 6 ~ 1 . 2		
作業能率 (分/100m)		5 ~ 1 0		
入力軸回転速度 (rpm)		5 4 0		
掘 削 部	爪 本 数	8		
	回 転 径 (mm)	5 6 0		
整 形 部	ド ラ ム 形 状	8 面 段 付 ド ラ ム		
	ド ラ ム 径 (mm)	8 5 0		
耕深調節機構		ゲ ー ジ 輪		

主 要 諸 元

型 式		BS850M-S	BS850M-T	BS850M-U -MU
機 体 寸 法	全 長 (mm)	1 9 1 0	1 9 6 0	1 8 8 0
	全 幅 (mm)	1 4 2 0	1 4 2 0	1 4 2 0
	全 高 (mm)	1 2 9 0	1 2 9 0	1 2 9 0
重 量 (kg)		3 3 9	3 4 1	3 3 3
適応トラクター (PS)		2 5 ~ 5 0		
装着装置の種類		日農工特殊4Pオートヒッチ		
		A I形	A II形	B形
標準作業速度 (km/h)		0 . 6 ~ 1 . 2		
作 業 能 率 (分/100m)		5 ~ 1 0		
入力軸回転速度 (rpm)		5 4 0		
掘 削 部	爪 本 数	8		
	回 転 径 (mm)	5 6 0		
整 形 部	ド ラ ム 形 状	8 面 段 付 ド ラ ム		
	ド ラ ム 径 (mm)	8 5 0		
耕深調節機構		ゲ ー ジ 輪		

主 要 諸 元

型 式		BS850MHT-4S	BS850MHT-3S	BS850MHT-0S	BS850MHT-1S
機 体 寸 法	全 長 (mm)	2 0 1 0	2 0 1 0	1 8 4 0	2 0 1 0
	全 幅 (mm)	1 4 2 0	1 4 2 0	1 4 2 0	1 4 2 0
	全 高 (mm)	1 2 9 0	1 2 9 0	1 2 9 0	1 2 9 0
重 量 (kg)		3 7 7	3 7 7	3 4 2	3 6 2
適応トラクター (PS)		2 5 ~ 5 0			
装着装置の種類		日農工標準オートヒッチ			標準3P直装
		3 P 0・I形 (標準オートヒッチ付)	3 P 0・I形 (標準オートヒッチ付)	3 P 0・I形	3 P 0・I形
標準作業速度 (km/h)		0 . 6 ~ 1 . 2			
作 業 能 率 (分/100m)		5 ~ 1 0			
入力軸回転速度 (rpm)		5 4 0			
掘 削 部	爪 本 数	8			
	回 転 径 (mm)	5 6 0			
整 形 部	ドラム形状	8面段付ドラム			
	ド ラ ム 径 (mm)	8 5 0			
耕深調節機構		ゲ ー ジ 輪			

主要諸元

型 式		BS850MHT-4L	BS850MHT-3L	BS850MHT-0L
機 体 寸 法	全 長 (mm)	2 2 5 0	2 2 5 0	1 8 6 0
	全 幅 (mm)	1 4 2 0	1 4 2 0	1 4 2 0
	全 高 (mm)	1 2 9 0	1 2 9 0	1 2 9 0
重 量 (kg)		4 1 1	4 0 1	3 4 6
適応トラクター (PS)		2 5 ~ 5 0		
装着装置の種類		日農工標準オートヒッチ		
		3 P I・II形 (標準オートヒッチ付)	3 P I・II形 (標準オートヒッチ付)	3 P I・II形
標準作業速度 (km/h)		0 . 6 ~ 1 . 2		
作 業 能 率 (分/100m)		5 ~ 1 0		
入力軸回転速度 (rpm)		5 4 0		
掘 削 部	爪 本 数	8		
	回 転 径 (mm)	5 6 0		
整 形 部	ドラム形状	8 面段付 ドラム		
	ド ラ ム 径 (mm)	8 5 0		
耕深調節機構		ゲ ー ジ 輪		

主 要 諸 元

型 式		BS850MH-S	BS850MH-T	BS850MH-U -MU
機 体 寸 法	全 長 (mm)	1 9 1 0	1 9 6 0	1 8 8 0
	全 幅 (mm)	1 4 2 0	1 4 2 0	1 4 2 0
	全 高 (mm)	1 2 9 0	1 2 9 0	1 2 9 0
重 量 (kg)		3 4 3	3 4 5	3 3 7
適応トラクター (PS)		2 5 ~ 5 0		
装着装置の種類	日農工特殊4Pオートヒッチ			
	A I形	A II形	B形	
標準作業速度 (km/h)		0 . 6 ~ 1 . 2		
作 業 能 率 (分/100m)		5 ~ 1 0		
入力軸回転速度 (rpm)		5 4 0		
掘 削 部	爪 本 数	8		
	回 転 径 (mm)	5 6 0		
整 形 部	ドラム形状	8面段付ドラム		
	ドラム径 (mm)	8 5 0		
耕深調節機構		ゲー ジ 輪		

型式名	装着方法
BS850M(H)-T	<ul style="list-style-type: none"> トラクターへの取付けがワンタッチでできる日農工標準3Pオートヒッチを採用しています。このオートヒッチの装着方法は4セット・3セット・0セットの3種類があります。
BS850M(H)-T-4S	<ul style="list-style-type: none"> ロアーリンク(左右)、トップリンクの3点とジョイントが同時に装着できる4点オート装着方式です。
BS850M(H)-T-3S	<ul style="list-style-type: none"> 3点リンクのみのオート装着方式でジョイントは従来通り手で装着します。なお、4セット用ジョイントを別に購入いただければ4セットオートヒッチになります。
BS850M(H)-OS	<ul style="list-style-type: none"> ヒッチ区分が同じならばオートヒッチ、ジョイントが共用できますから、オートヒッチ、ジョイントは装備されていません。2台目用の作業機です。
BS850M(H)-1S	<ul style="list-style-type: none"> トラクター側のロアーリンク・トップリンクへ、作業機を直接装着します。
BS850M(H)-S	<ul style="list-style-type: none"> トラクターへの取付けがワンタッチでできる日農工特殊3Pオートヒッチ、A-I形を採用しています。オートヒッチ、ジョイントはトラクターメーカー純正品を使用します。従って、オートヒッチ、ジョイントは装備されていません。
BS850M(H)-T	<ul style="list-style-type: none"> トラクターへの取付けがワンタッチでできる日農工特殊3Pオートヒッチ、A-II形を採用しています。オートヒッチ、ジョイントはトラクターメーカー純正品を使用します。従って、オートヒッチ、ジョイントは装備されていません。
BS850M(H)-U (MU)	<ul style="list-style-type: none"> トラクターへの取付けがワンタッチでできる日農工特殊3Pオートヒッチ、B形を採用しています。オートヒッチ、ジョイントはトラクターメーカー純正品を使用します。従って、オートヒッチ、ジョイントは装備されていません。

KOBASHI

小橋工業株式会社

〒701-0292 岡山市南区中畦684

☎ (086) 298-3112

インターネットでも弊社の情報がご覧いただけます。

<http://www.kobashikogyo.com>

■北海道営業所 〒071-1248 北海道上川郡鷹栖町8線西2号6番

☎ (0166) 49-0070

■東北営業所 〒024-0004 岩手県北上市村崎野13地割35-1

☎ (0197) 71-1160

■関東営業所 〒321-3325 栃木県芳賀郡芳賀町芳賀台47-1

☎ (028) 687-1600

■新潟営業所 〒942-0041 新潟県上越市安江477-1

☎ (025) 546-7747

■岡山営業所 〒701-0165 岡山市北区大内田727

☎ (086) 250-1833

■九州営業所 〒861-2236 熊本県上益城郡益城町広崎1586-8 2F

☎ (096) 286-0202